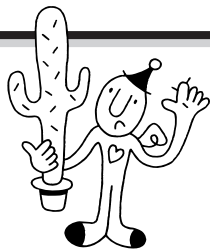




VALUE STAR パソコンから知らず知らずのうちに

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！



周辺機器をつなぐには...

接続方法を読んでから

接続方法は周辺機器によって異なります。買っていきなり接続するのではなく、まずはこのマニュアル、周辺機器に添付のマニュアルをよく読んで、接続方法を理解してからにしましょう。

確実に

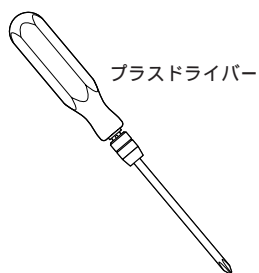
周辺機器の接続や操作、はずしたネジの取り付けなどは確実に行ってください。周辺機器やパソコンが動作しなくなる場合があります。また、ドライバーなどでパソコンや周辺機器を傷つけないようにしてください。

あわてない

周辺機器を接続すると、ドライバなどのインストール画面が出てきます。意味がわからなくてもあわててはいけません。落ちついて画面の説明をよく読んでみましょう。

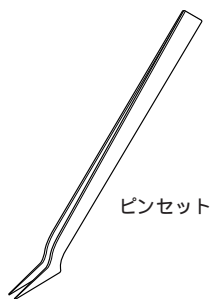
用意するもの

必要なもの



本体を開けるときに必要です。本体のネジはすべてプラスですが、大きさが違うものがあるので、プラスドライバーは2、3種類の大きさを用意しましょう。

あると便利なもの



本体の中にネジを落としてしまったりしたときに、あると便利です。

ドライバーは単品ではなく、セットになっているものを購入しておくとい良いでしょう。

はじめに

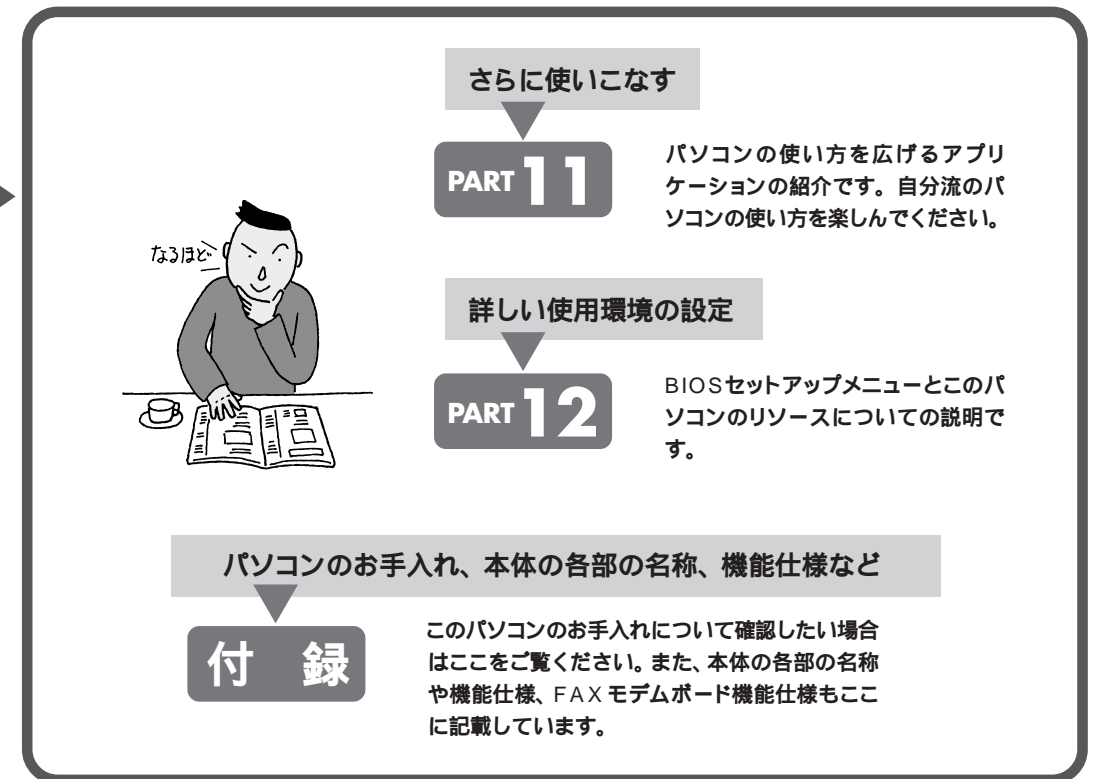
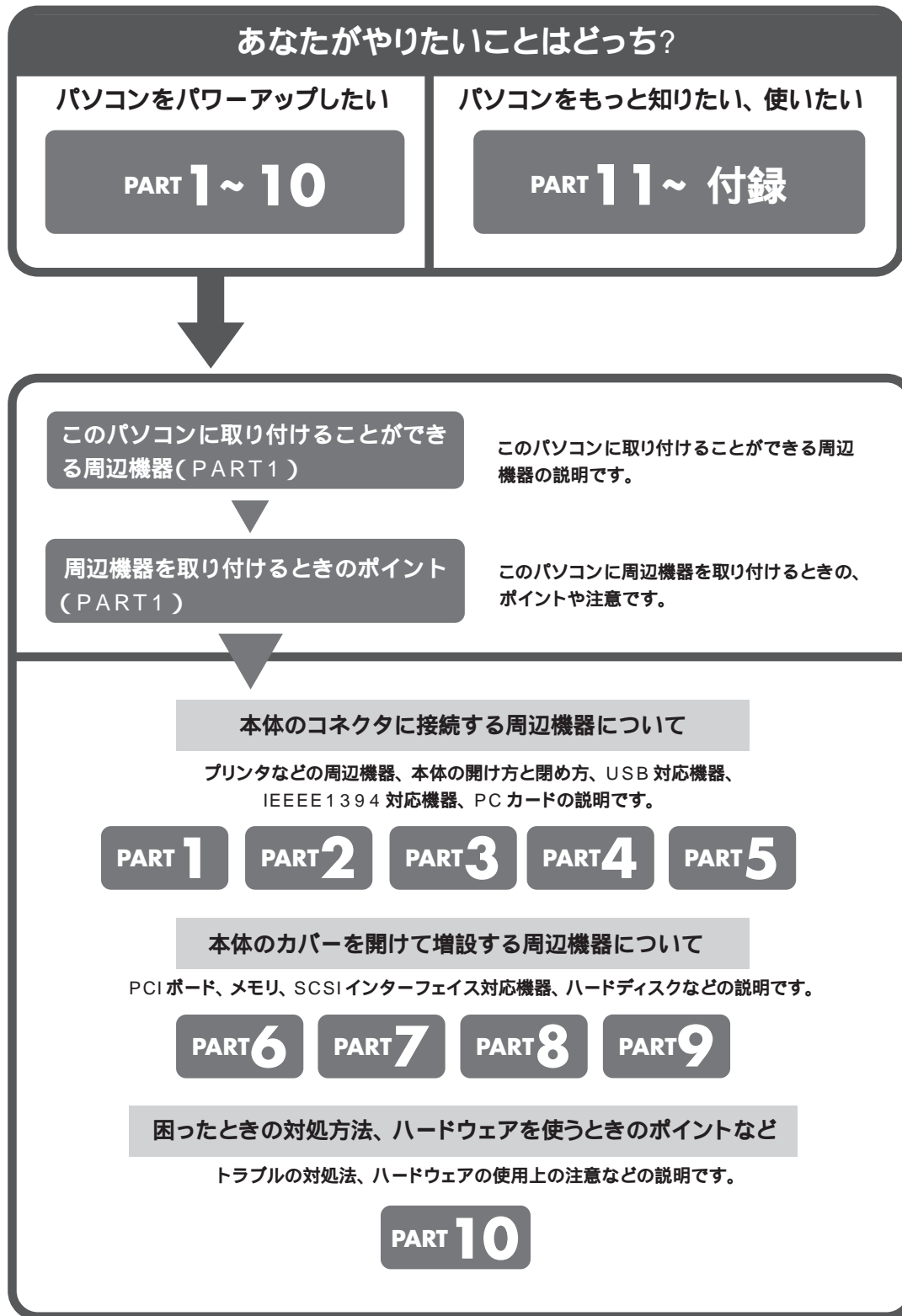
この本には、プリンタなどの周辺機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明やパソコンの設定を変更したりするとき役立つ情報が載っています。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分パソコンを使いこなしてください。

2001年1月 初版

『もっと知りたいパソコン』の読み方

この「『もっと知りたいパソコン』の読み方」を参考にして、知りたい情報を探してください。



このマニュアルの表記について

手順は左、補足説明は右に (PART1 ~ PART9)

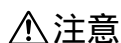
このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱う方は、右側の説明もよく読んでください。

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



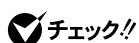
感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



用語



パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。
CD-ROMドライブ	CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。
 「添付ソフトの使い方」	「スタート」-「NEC電子マニュアル」-「添付ソフトの使い方」を開き、各ソフトの使い方を参照することを示します。「添付ソフトの使い方」は、「ランチ-NX」から開くこともできます。
 「サポートセンタ」	「サポートセンタ」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートセンタ」は画面右上の「サポートセンタ」をクリックして起動します。

このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧ください。購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル(機種)を指します。
CRTディスプレイセットモデル	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
Office 2000モデル	Microsoft® Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

型名	型番	表記の区分		
		内蔵CD-R/RW ドライブ、 DVD-ROMドライブ	ディスプレイ	添付 アプリケーション
VL1000N/67D	PC-VL1000N67D	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CRTディスプレイセットモデル (17型CRT)	Office 2000モデル
VL750R/67D	PC-VL750R67D			
VL750R/65D	PC-VL750R65D	CD-R/RWモデル	CRTディスプレイセットモデル (15型CRT)	

本文中の画面、イラスト、ホームページのアドレス

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものであります。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/ Shogakukan Bookshelf® Basic)
MS-IME 2000	Microsoft® IME 2000
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
DirectCD	DirectCD™ 3
NEC PC オーナーズ スケジューラ	NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBE スケジューラ

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-DJPC-ST

認証番号

電話回線：A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

高調波電流規制について

この装置の本体および17型CRTディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブまたはDVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Millennium Editionおよび本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、Bookshelf、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「iモード」はNTTドコモの登録商標です。

携快電話は SOURCENEXT 株式会社の登録商標です。

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

Adaptec および Adaptec 社のロゴは、Adaptec, Inc. の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCD は、Adaptec, Inc. の商標です。

AMD、AMDロゴ、AMD Athlon、AMD Duron、3DNow!、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Hayes は、米国 Hayes Microcomputer Products の登録商標です。

PS/2 は IBM 社が所有している商標です。

MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。

K56flex は、Lucent Technologies と CONEXANT SYSTEMS の商標です。

nVIDIA は、nVIDIA 社の登録商標です。

SmartVoice、BIGLOBE は、日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

目次

CONTENTS

PART

1

はじめに	i
『もっと知りたいパソコン』の読み方	ii
このマニュアルの表記について	iv
このパソコンで使える周辺機器	1
このパソコンに取り付けることができる周辺機器	2
本体前面に取り付けることができる周辺機器	2
本体背面に取り付けることができる周辺機器	3
本体内部に取り付けることができる周辺機器	4
周辺機器を取り付けるときのポイント	5
周辺機器選びで失敗しないために	5
パソコンの電源を切ってから取り付けよう	5
電源を入れたまま取り付けられる周辺機器	6
メモリや PCI ボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける ..	6
取り付けただけですぐに使えない周辺機器	6
プリンタ	7
プリンタの種類	7
プリンタを使えるようにする	8
AV 機器を接続する	9
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子	9
マイクロホン端子	11
LINE IN 端子	12
LINE OUT 端子	12
ターミナルアダプタ	13
ISDN 回線について	13
ターミナルアダプタを使う	13
デジタルカメラ	15
画像データを取り込む	15
その他の機器のご紹介	17
DVD-ROM ドライブ	17
外付け用ハードディスク	17
MO ディスクドライブ	17
PCI ボード	18

PART

2

デジタルビデオカメラ 19

機器を取り付ける前に 2 1

接続から準備完了までの流れ 2 2

 ドライバなどをインストールする 23

 周辺機器の取り外しと再接続 25

機器を取り付けるときのご注意 2 6

本体の開け方と閉め方 2 7

 用意するもの 27

 ルーフカバーの外し方 27

 ルーフカバーの取り付け方 31

PART

3

USB 対応機器を使う 3 3

USB とは 3 4

 USB なら簡単接続 34

 USB コネクタについて 35

USB 対応機器を接続する 3 6

 接続する前に 36

 USB コネクタにプラグを差し込む 37

 正しく接続できたかどうか確認する 39

 USB 対応機器を取り外すときの注意 39

 USB ハブを使う 40

 USB 対応機器を使用するときの注意 40

PART

4

IEEE 1394 対応機器を使う 4 1

IEEE 1394 について 4 2

 IEEE1394って何? 42

IEEE 1394 対応機器を接続する 4 3

 IEEE1394 対応機器を取り外すときの注意 44

PART

5

PC カードを使う 45

PC カードスロットについて 46

PC カードの入れ方と出し方 47

 PC カードをセットする前に 47

 PC カードをセットする 48

 PC カードを取り出す 50

 PC カードを使用するときの注意 52

PART

6

PCI ボードを使う 53

PCI ボードについて 54

 いろいろな PCI ボード 54

 PCI スロット 54

PCI ボードの取り付けと取り外し 55

 PCI ボードの取り付け方 55

 PCI ボードの取り外し方 58

PART

7

メモリを増やす 59

メモリを増やすには 60

 このパソコンで使える増設 RAM サブボード 60

 メモリの増やし方の例 61

増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し 62

 ボードを取り扱うときに気をつけること 62

 増設 RAM サブボードの取り付け方 62

 RAM サブボードの取り外し方 64

増やしたメモリを確認する 65

 確認のしかた 65

 メモリが増えていなかったら 66

PART

8

SCSI インターフェイス対応機器を使う 67

SCSI 機器を使うには 68

SCSI インターフェイスについて 69

 接続できる SCSI 機器 69

 SCSI に関する基礎知識 69

 SCSI インターフェイスの種類 70

用意するもの 71

SCSI インターフェイスボードを取り付ける 72

SCSI 機器を接続する 73

SCSI 機器がうまく動かないときは 74

PART

9

ハードディスクを増設する 75

ハードディスクを増設するには 76

用意するもの 77

本体にハードディスクを接続する 78

PART

10

ハードウェアの活用術 81

困ったときのチェックポイント 82

マウス 84

 スクロールボタンを使う 84

キーボード 86

 キーの役割 86

 キーの名称 86

 ワンタッチスタートボタンの名前と役割 88

 PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い 89

 使用上の注意 89

ハードディスク / フロッピーディスク 90

 ハードディスクの取り扱い上の注意 90

 ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる 90

 使用できるフロッピーディスクの種類 90

PART

11

省電力機能	91
概要	91
省電力機能を使う	92
省電力の設定を変える	94

さらに広がるパソコンワールド 95

携帯電話と連携する	96
携帯電話に登録されている情報を編集する	96
パソコンで作成したデータをiモード機能のある携帯電話で閲覧する	96
CD-R や CD-RW にデータを書き込む	99
CD-R と CD-RW の特長	99
CD-R や CD-RW にデータを書き込むソフトについて	99
他の CD-ROM ドライブでメディアを読み込むときの注意	100

PART

12

本機の設定を変更する 101

BIOS セットアップメニュー	102
BIOS セットアップメニューを使ってできること	102
BIOS セットアップメニューを使う	102
パスワードの解除	103
このパソコンが使用しているリソース	105
割り込みレベル (IRQ)	105
DMA チャンネル	105

付 録 107

パソコンのお手入れ	108
準備するもの	108
電源を切って、電源ケーブルを外す	108
清掃する	109
マウスのクリーニング	110
本体の各部の名称	111
機能仕様	116

FAX モデムボード機能仕様 118

索引 121

P A R T

1

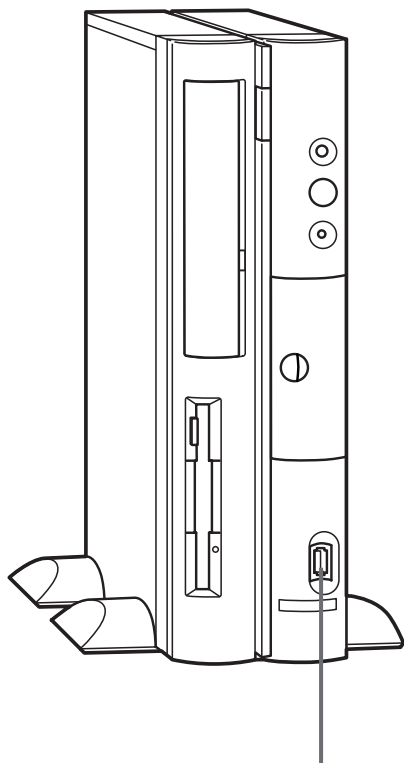
このパソコンで使える周辺機器

プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますます豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

このパソコンに取り付けることができる周辺機器

本体前面に取り付けることができる周辺機器

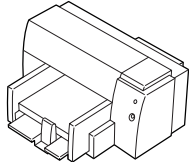
周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。
また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。



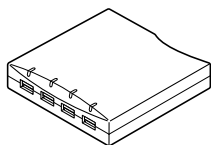
USB コネクタについて
USB コネクタは本体前面と本体背面に
1 個ずつあります。

USB コネクタ

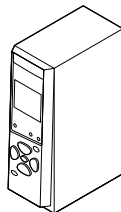
USB 対応プリンタ
PART 1



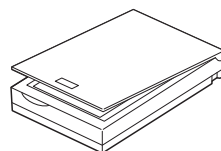
USB ハブ
PART 3



USB 対応 ISDN ターミナルアダプタ
PART 1



USB 対応スキャナ

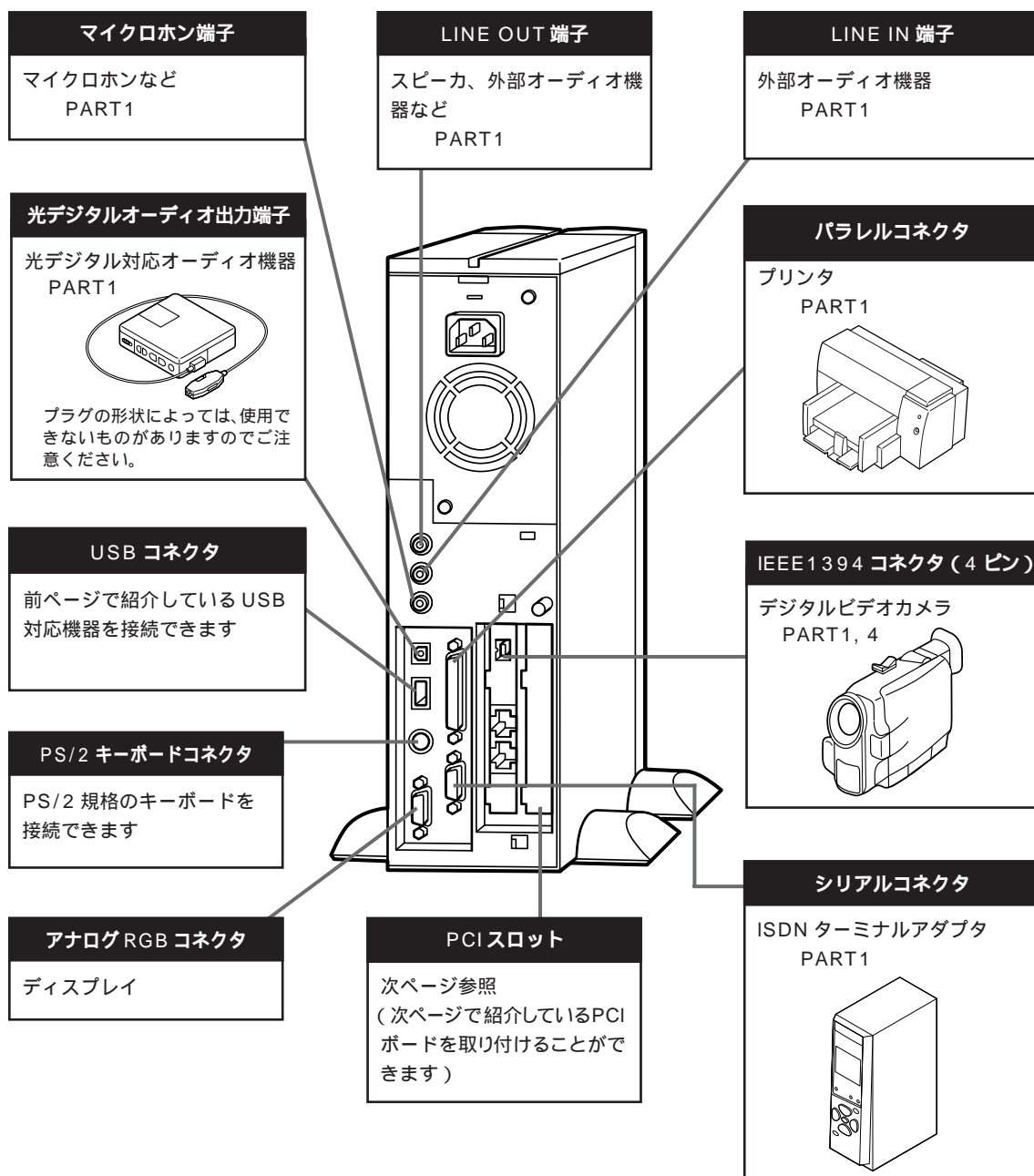


USB 対応デジタルビデオカメラ

その他の USB 対応機器

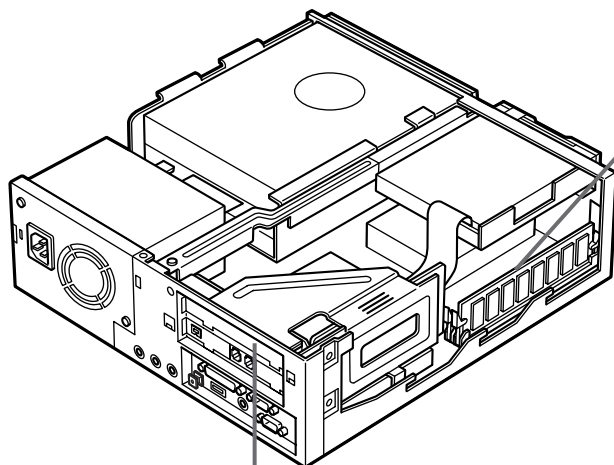
USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。

本体背面に取り付けることができる周辺機器



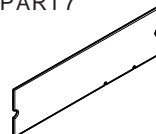
本体内部に取り付けることができる周辺機器

下の図はルーフカバーを外した状態です。



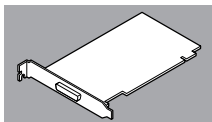
増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード
PART7

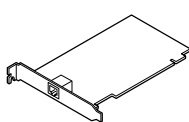


PCIスロット ()

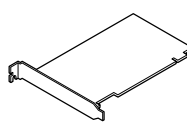
SCSIインターフェイスボード
PART8



LAN (ネットワーク) ボード
PART1

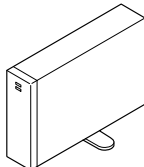


その他の PCI 対応ボード
PART6

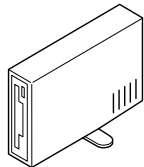


SCSI 対応機器 (SCSI インターフェイスボードに接続します)

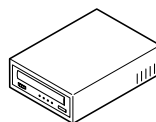
外付け用ハードディスク



MO ディスクドライブ



その他の SCSI 対応機器



周辺機器を取り付けるときのポイント

周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンでは使えないものもあります。周辺機器を選ぶときのコツや取り付ける際の注意点を確認しておきましょう。

周辺機器選びで失敗しないために

新製品情報をチェック

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがあります。自分の欲しい製品がないか、チェックしてみましょう。

このパソコンで使えることを確認

同じプリンタでも、機種によって接続方法や対応パソコンの種類などが異なり、このパソコンでは使えない場合もあります。せっかく買ってきたのにこのパソコンでは使えなかった、ということにならないように、このパソコンで使えるかどうか、購入前に確認しましょう。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で、このパソコンで使える周辺機器を紹介しています。インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「121ware.com」のアドレス(URL) <http://121ware.com>

NEC製以外の機器については、各メーカーや販売店にお問い合わせください。

接続の規格に気を付ける

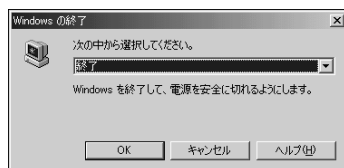
このパソコンにはシリアルコネクタ(RS-232C)、パラレルコネクタ(セントロニクスなどと記載)、USBコネクタ、IEEE1394コネクタ、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子、PCIスロット、PCカードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談しましょう。

パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。休止状態(p.91)になると、パソコン本体の電源ランプが消灯し、電源が切れますが、Windowsは終了していません。休止状態から復帰させ、Windowsを終了して電源ケーブルを抜いてから、周辺機器を取り付けてください。

1

Windowsを終了する

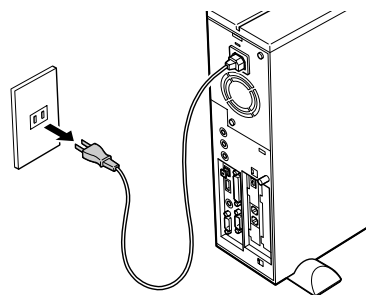


2

電源ケーブルを抜く

3

取り付け作業を始める



電源を入れたまま取り付けられる周辺機器

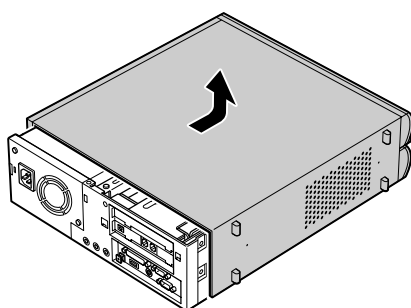
USB対応機器やIEEE1394対応機器、PCカードは、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできます。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったらまた取り外す、というような使い方ができます。

メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

パソコンの動作を速くするために必要な「増設RAMサブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART2の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。

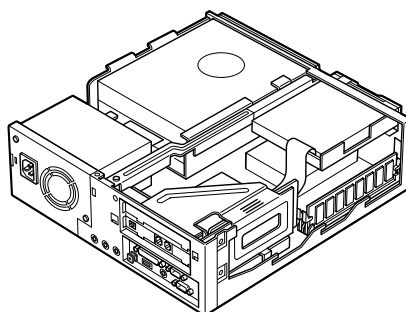
1

パソコン本体のカバーを外してから



2

取り付け作業を始める



☞ 参照 カバーの開け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

マイクロホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。しかし、ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付け後にパソコン上で設定を行う必要があります。

たとえば、

- ・ USB対応機器やプリンタ、SCSIインターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある(詳しくはPART2を参照)
- ・ ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要があるものもある(詳しくはハードディスクに添付のマニュアルを参照)
- ・ ターミナルアダプタやスキャナ、プリンタなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各PARTの説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

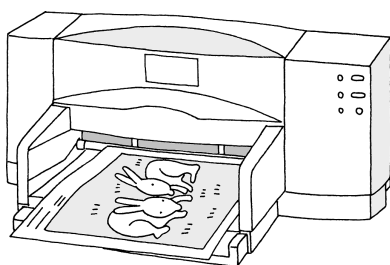
プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷できます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

プリンタの種類

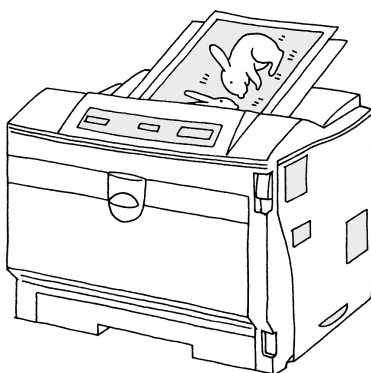
プリンタには次のような種類があります。用途に合ったプリンタを選びましょう。

インクジェットプリンタ



価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にしたインクを紙に吹き付けて印刷します。写真などを美しくカラー印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

レーザープリンタ(ページプリンタ)



コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。

ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときはこのタイプを使います。

プリンタを使えるようにする

プリンタが使えるようになるまでの手順は次のとおりです。
プリンタは、本体のUSBコネクタまたはパラレルコネクタに接続します。

ほとんどの場合、接続した後で、専用のドライバやアプリケーション(プリンタに添付してあるもの)のインストールが必要になります(接続するだけですぐに使えるプリンタもあります)。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

用語

ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)します。

USBコネクタに接続する場合

用途に合わせてプリンタを選ぶ

接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する
(プリンタ添付のマニュアル参照)

パソコン本体とプリンタの電源を入れてから、パソコン本体のUSBコネクタにプリンタを接続する

プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする
(プリンタに添付のマニュアル参照)

プリンタに添付のマニュアルを見ながら、正しく接続できたか確認する
(テスト印刷)

パラレルコネクタに接続する場合

用途に合わせてプリンタを選ぶ

接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する
(プリンタ添付のマニュアル参照)

パソコンの電源を切り、パラレルコネクタにプリンタを接続する

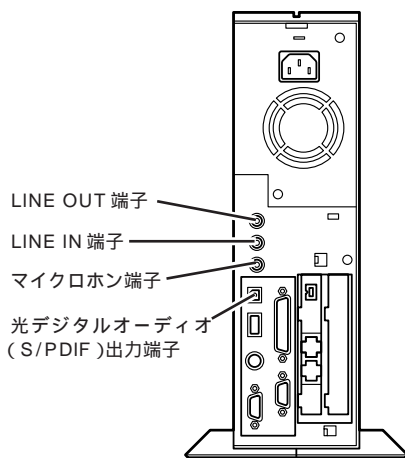
パソコンの電源を先に入れてから、プリンタの電源を入れる

プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする
(プリンタに添付のマニュアル参照)

プリンタに添付のマニュアルを見ながら、正しく接続できたか確認する
(テスト印刷)

AV 機器を接続する

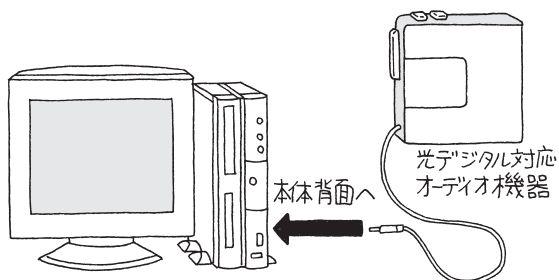
このパソコンでは、パソコンの音を外部のスピーカーで鳴らしたり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだりすることができます。



光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

この端子にMDデッキやAVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して音を聴いたり、パソコンで再生した音をオーディオ機器にデジタル録音できます。

MDにデジタル録音するには、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」を使います。



出力される音源


光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル信号で出力されます。

- ・WAVE 音源
- ・MIDI 音源

✓チェック!!

モデルにより本体の形状は、多少異なります。

📖参照

Jet-Audio Player について 
「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」

ドルビーデジタル5.1チャンネル出力(ドルビーデジタルサラウンドに対応。ただし、ドルビーデジタルによる5.1チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要です)にも対応しています。なお、DTS出力には対応していません。

S/PDIF の出力設定の変更方法

「スタート」「設定」「コントロールパネル」「ヤマハ DS-XG 設定」の「デジタル出力」タブでデジタル出力モードを変更します。

OFF :この端子、スピーカ、LINE OUT端子から音声のみを出力しません。

ON(デジタルソースのみ)

:この端子に光デジタルケーブルを接続したときは、光デジタル信号を出力します。スピーカを接続したときは音声を出力します。光デジタル信号で出力されるのは、Wave や MIDI 等のデジタルソースのみです。

ON(すべて)/通常出力は消音

:この端子から光デジタル信号のみを出力します。スピーカ、LINE OUT 端子から音声は出力されません。すべての音声が光デジタル信号で出力されます。

ON(ダイレクト)

:このパソコンでは使用できません。

オーディオ機器を接続するときの注意

- ・必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。
- ・デジタルオーディオ入力機器によっては光デジタルに対応していないことがあります。この場合は、別途、変換ユニットが必要になることがあります。
- ・デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- ・この端子の形状は光ミニ二端子(角形)です。ケーブルのプラグ形状によっては使用できないものがありますので、ご購入時に確認してください。
- ・このパソコンの光デジタル信号出力のサンプリング周波数は48kHzです。デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときは、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルで確認してください。

Jet-Audio Player の設定の変更方法

以下の手順にて、Jet-Audio Playerの「デジタル出力」設定を変更してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」>「Jet-Audio Player」の順にマウスポインタを合わせ、「Jet-Audio Player」をクリックします。

「Jet-Audio Player」が起動します。



「Jet-Audio Player」の「ラック制御」パネルの「細かい設定」をクリックします。

「細かい設定」ウィンドウが表示されます。

☑️チェック!

- ・ご購入の機種によって表示されるサウンドドライバ名は異なります。ドライバ名は「サポートセンタ」の「パソコンの情報」の「詳細」で確認できます。
- ・コントロールパネルに「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンが表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。

「デジタルビデオ」タブをクリックし、「DVD エンジンの環境設定」をクリックします。

「オーディオ出力」タブをクリックし、「デジタル出力」のをクリックして、にします。

「OK」ボタンをクリックします。

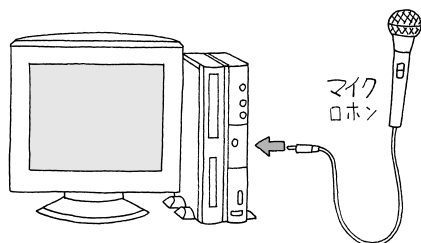
「OK」ボタンをクリックします。

「設定を変更するには、Jet-Audio Playerを再起動してください。」と表示されたら、「OK」をクリックし、「Jet-Audio Player」を終了させます。

「Jet-Audio Player」再起動後、設定が有効になります。

マイクロホン端子

この端子にマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。



音量の調節

マイクロホンからの入力音量はWindowsの「ボリュームコントロール」の機能で調節します。「ボリュームコントロール」は、「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」「ボリュームコントロール」をクリックして起動できます。

ハウリングについて

マイクロホンのスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがありますが、故障ではありません。これをハウリング現象といいます。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロホンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

取り込んだ音声の利用

マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存することができます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」は、「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」「サウンドレコーダー」をクリックして起動できます。

✓チェック!!

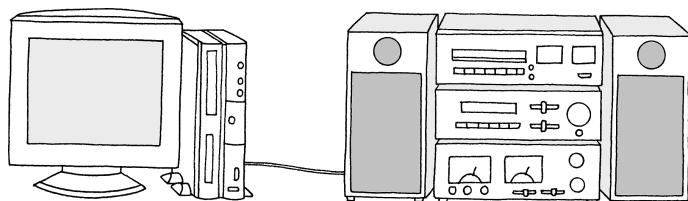
このパソコンには、マイクロホンは添付されていません。モノラルミニプラグ付のマイクロホンを、別途購入してください。

マイクロホンを使って音声入力をする

「SmartVoice4.0」などの日本語音声認識ソフトをインストールして、このパソコンにマイクロホンを接続すると音声で文字入力やパソコンの操作ができるようになります。また、このパソコンに添付されているアプリケーションのなかで、「音声対応」となっているものは、音声で文字入力や操作ができます。詳しくは、アプリケーションのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

LINE IN 端子

この端子に外部オーディオ機器を接続して、外部オーディオ機器から出力される音をパソコンで聴いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。



LINE OUT 端子

この端子に外付けスピーカーや外部オーディオ機器を接続して、パソコンから出力される音を聴いたり、テープレコーダ等に録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

✓チェック!!

ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときは、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。また、外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入してください。

ターミナルアダプタ

ここでは、より高速にインターネットを楽しむことができるISDN回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ（ISDNターミナルアダプタ）について簡単に説明します。

ISDN回線について

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

- ・ノイズの混入や信号の減衰がない
- ・一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかにDSUという装置が必要です。DSUを内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。

デスクトップにある「ISDN」をダブルクリックすると、「カンタンISDN」の紹介ページが表示されます。ここでは、ISDNの基礎知識やISDN回線にするメリットなどISDNについて幅広く解説しています。また、今すぐここからISDNの申し込みを行うこともできます。ここからISDNにお申し込みいただくと、さまざまな特典を受けることができます。

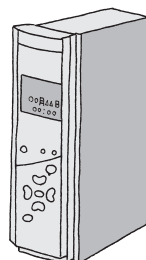
2001年7月末日までにお申し込みいただいた方に限ります。

ターミナルアダプタを使う

ISDNターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

- ・ISDN回線の契約をしていること
- ・DSUが内蔵されていること（DSUが内蔵されていない場合は、別途用意してください）
- ・ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

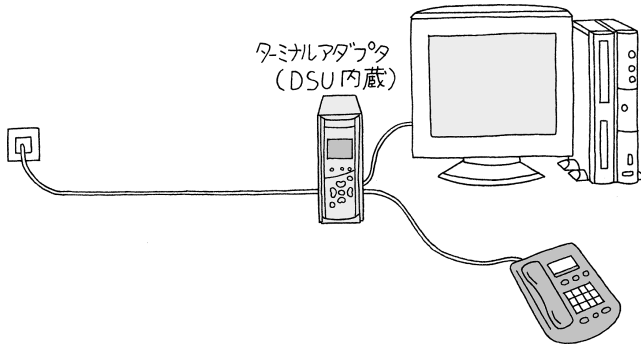
このパソコンにターミナルアダプタを接続するときは、USBコネクタかシリアルコネクタに接続します。




✓チェック!!

ISDN回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応している必要があります。

USB対応のターミナルアダプタは、本体のUSBコネクタに接続します。また、無線対応のターミナルアダプタ (AtermiWX70) とマルチモバイルカード (AtermRC45) を利用することもできます。こうすると、ターミナルアダプタから離れた場所にパソコンを設置できるため、たとえば1階にしかモジュラーコンセントがなくても2階の部屋でインターネットを楽しむことができるようになります。



ISDN回線に契約していない場合は、契約する
(デスクトップにある  から契約することもできます)

ターミナルアダプタ(必要に応じてDSUも)、必要なケーブル類を用意する

ターミナルアダプタに添付のマニュアルを参照して、必要なドライバ、アプリケーションをインストールする

ターミナルアダプタに添付のマニュアルとこのマニュアルを参照して、パソコンにターミナルアダプタを接続する

インターネットの設定をISDN回線用にする

デジタルカメラ

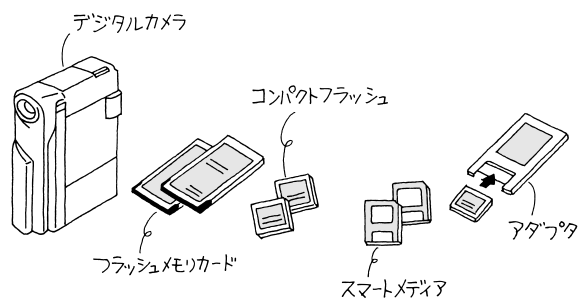
デジタルカメラ(デジタルスチルカメラ)で撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込むには、いろいろな方法がありますが、ここでは、PCカードスロット経由で取り込む方法で説明します。取り込んだ画像は、いろいろなアプリケーションで活用できます。

画像データを取り込む

デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込む方法は、デジタルカメラによって異なります。ここではメモ리카ードを使う方法を説明します。デジタルカメラで撮影した写真は、画像データとしてメモ리카ードにいったん保存されます。デジタルカメラによってメモ리카ードの種類はさまざまですが、次の2つのタイプに分けることができます。

- ・ PCカードスロットにそのままセットできるもの(フラッシュメモ리카ードなど)
- ・ PCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要なもの(コンパクトフラッシュやスマートメディアなど)

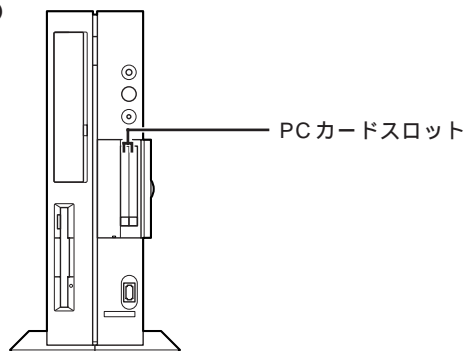
お使いのデジタルカメラのメモ리카ードについて詳しくは、デジタルカメラに添付のマニュアルをご覧ください。




この他にも、USBケーブルをパソコン本体に接続して画像を取り込むタイプのものもあります。

パソコン本体の電源を入れる

デジタルカメラから画像データの入ったメモ리카ードを取り出し、PCカードスロットにセットする(必要に応じて市販のPCカードスロット用のアダプタを使う)



PCカードスロットのカバーを開けたところ

デスクトップの「マイコンピュータ」からFドライブをダブルクリックし、画像が保存されているフォルダを開き、画像データが保存されていることを確認する

「表示」「縮小表示」をクリックすると画像が縮小表示されるので、どんな写真か確認できます。

Fドライブ(PCカード)からCドライブ(パソコンのハードディスク)にデータをコピーする


デスクトップの「マイドキュメント」-「My Pictures」フォルダにコピーすると、縮小表示された画像の一覧を見ることができます。また、ウィンドウ左側に表示されるボタンを使って、画像を回転したり印刷したりすることもできます。

取り込んだ画像データを活用する

パソコンに取り込んだ画像データは、大きさや色を変えたり、文章を入れたりすることができます。また、このパソコンに添付されている筆王を使うとはがき作成に利用することもできます。


 参照

PCカードの取り扱い方 「PART5 PCカードを使う」(p.45)

 チェック!!

購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、PCカードはFドライブになります。

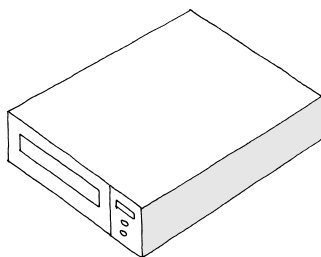
 参照

筆王について  「添付ソフトの使い方」-「筆王」

その他の機器のご紹介

その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較的良好に使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

DVD-ROM ドライブ



CD-ROM の約 7 倍にあたる 4.7G バイト(片面の場合)のデータを記録できる読み出し専用の DVD-ROM を再生できるドライブです。DVD-ROM は映画や音楽などを楽しむメディアとして普及がはじまっています。DVD-ROM ドライブでは、DVD-ROM や CD-ROM のほかに CD-R/RW ドライブで保存した CD-R や CD-RW などとも利用できません。

外付け用ハードディスク

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、ハードディスクの容量が足りなくなってきました。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。機種によって接続の規格が異なります。SCSI インターフェイス対応のものは、PC カードスロットに SCSI カードを取り付けるか、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けて接続します。

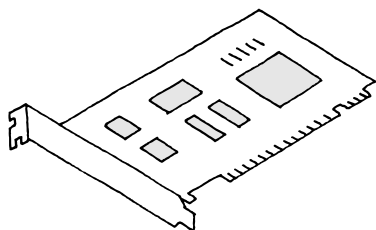
MO ディスクドライブ

3.5 インチ MO ディスク(光磁気ディスク)を扱うことができるドライブです。3.5 インチ MO ディスクは、日本国内で普及している大容量メディアの 1 つです。記憶容量は 128M バイト、230M バイト、540M バイト、640M バイト、1.3G バイトの 5 種類があり、ドライブの種類によって扱えるディスクが異なります。また、ドライブは機種によって接続の規格が異なります。SCSI インターフェイス対応のものは、PC カードスロットに SCSI カードを取り付けるか、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けて接続します。

このほかに PD、Zip、Jaz などの大容量メディアもあり、データを読み書きするには、それぞれのメディアに対応したドライブが必要になります。

PCI ボード

PCI ボードには次のようなものがあります。



SCSI インターフェイスボード

このパソコンに外付け用ハードディスクや、MOディスクドライブなどの SCSI インターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

3D グラフィックアクセラレータボード

3D グラフィック、2D グラフィックを高速描画することができるボードです。CAD や 3D グラフィックス、3D ゲームなどに対応しています。また、動画の再生もなめらかに表示することができます。2D アクセラレーション機能もありますので、アプリケーションでも画面を高速に描画することができます。

LAN ボード

LAN ボードはこのパソコンを LAN (Local Area Network) に接続するための PCI ボードです。LAN は同じ建物の中など比較的近距离で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LAN でコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LAN に接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されている LAN ボードの多くは 100BASE-TX または 10BASE-T という規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。また、LAN ボードと同じ機能を持つものに LAN カードがあります。LAN カードは PC カードスロットに取り付けます。

チェック!

PCI ボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらの PCI ボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

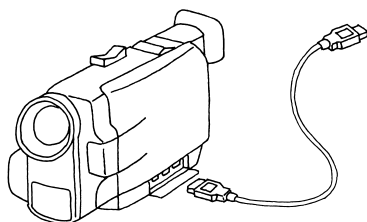
参照

PCI ボードの使い方 「PART6 PCI ボードを使う」(p.53)

参照

SCSI インターフェイスボードを使う 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.67)

デジタルビデオカメラ



このパソコンにデジタルビデオカメラを接続すると、ビデオ映像をパソコンに取り込むことができます。

また、DV端子(IEEE1394コネクタ)付のデジタルビデオカメラなら、一本のケーブルで映像も音声も取り込むことができます。


デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、「PART 4 IEEE1394対応機器を使う」(p.41)および、デジタルビデオカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに添付されている VideoStudio で映像の編集ができます。

✓チェック!!

VideoStudioを使うには添付のアプリケーション CD-ROM からインストールを行います。

📖参照

- IEEE1394 について 「PART 4 IEEE1394 対応機器を使う」(p.41)
- VideoStudioについて  「添付ソフトの使い方」-「VideoStudio」

2

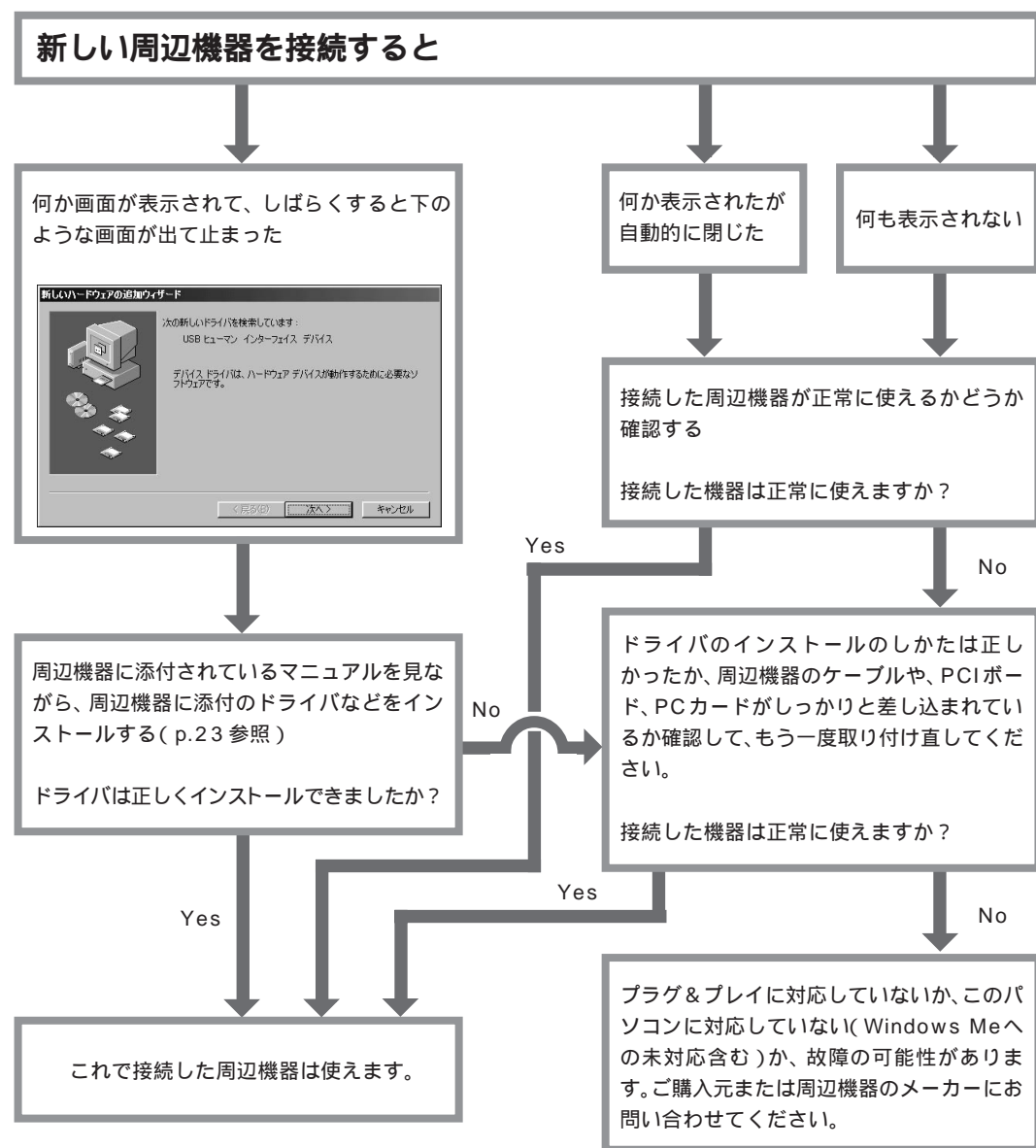
機器を取り付ける前に

メモリを増設したり、いろいろなボードや周辺機器を取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。しかし、周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。

ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備と作業の方法について説明します。

接続から準備完了までの流れ

周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。「故障かな？」とあわてる必要はありません。はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の3通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。




ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。


ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

プラグ & プレイに対応している周辺機器の場合

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます( をクリックしてってください)。



・パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま  をクリックしてください。



これでドライバのインストールは終了です。



ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)ます。



プラグ & プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

・周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示されるのは、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルをご覧になりドライバをインストールしてください。



プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや、専用のアプリケーションのインストールは手動で行います。詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合

Windows Meには、新しくドライバを追加した際のトラブルを防ぐため、追加しようとしているドライバがWindows Meで正しく動作するものかどうか、チェックする機能があります。正しく動作することがMicrosoftによって保証されているドライバには、Microsoftデジタル署名が付けられています。

デジタル署名についてのメッセージが表示された場合は、周辺機器のメーカーにデジタル署名のついたドライバを入手できないか確認するか、Windows Update を実行してみてください。

ドライバをインストールするときの注意

ドライバのインストール後、Windowsを再起動する必要があることもあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。


周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要があることがあります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

周辺機器に添付のドライバをインストールするときは、ドライバがWindows Meに対応しているかどうか確認してください。Windows Meに対応していないドライバをインストールすると、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Windowsを再起動する必要があることがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

周辺機器の取り外しと再接続

プリンタなどのUSB対応機器、メモリカードなどのPCカードは、パソコンの電源を入れたまま、取り付け、取り外しができます。

ただし、タスクトレイにが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、このパソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行うときは、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1 タスクトレイのをダブルクリック



「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。



2 「ハードウェアデバイス」の一覧から取り外す周辺機器を選んで

3 「停止」をクリックする



4 取り外す周辺機器が選択されていることを確認し、

5 「OK」をクリック

「***は安全に取り外すことができます。」と表示されます。



6 「OK」をクリック

これで周辺機器は取り外せます。

同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。ウィンドウが表示されたら、ウィンドウの指示にしたがってください。これは機器の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

参照

- ・ USB 対応機器の取り外し PART3の「USB対応機器を取り外すときの注意」(p.39)
- ・ IEEE 1394 対応機器の取り外し PART4の「IEEE 1394 対応機器を取り外すときの注意」(p.44)
- ・ PC カードの取り外し PART5の「PCカードを取り出す」(p.50)

機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠ 警告



雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。




濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。



周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、コンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。



このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。


CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



 本体を解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

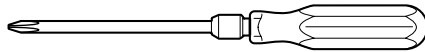
本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。作業はあせらず、ゆっくりと行ってください。

用意するもの

プラス（+）ドライバー

ネジ山に合った先端の
ものを使って
ください

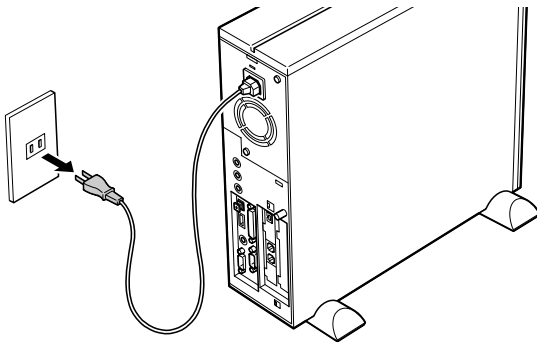


ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

ルーフカバーの外し方

1 本体と、スピーカなど周辺機器の電源を切る

2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く



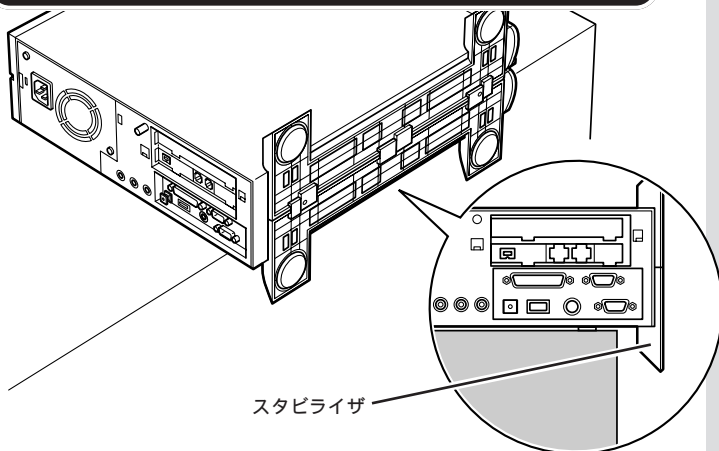
3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

✓チェック!!

ここで取り外したケーブルは、メモリやボードなどの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けたあとで、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

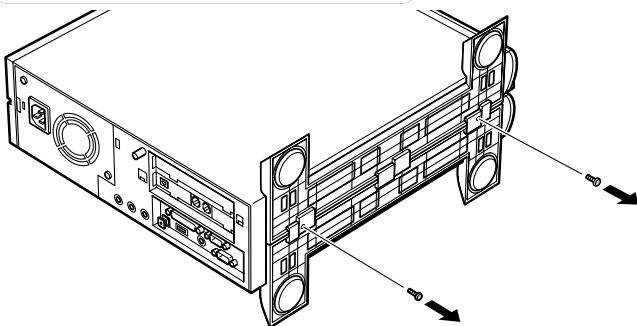
4

本体の左面(正面から見て左側)を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



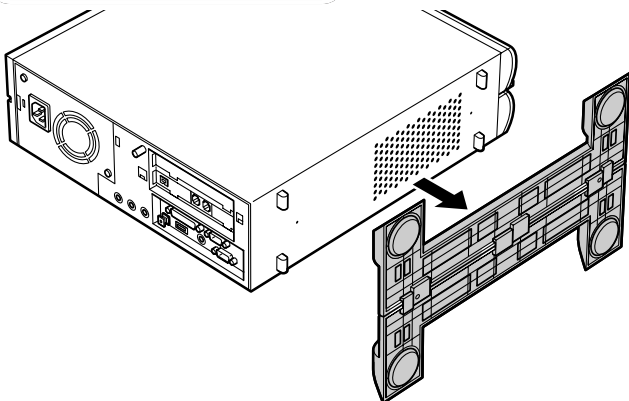
5

用意したドライバーで本体底面のネジを2本外す



6

スタビライザを取り外す



本体を横に倒すときは、机やテーブルなどを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

✓チェック!!

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

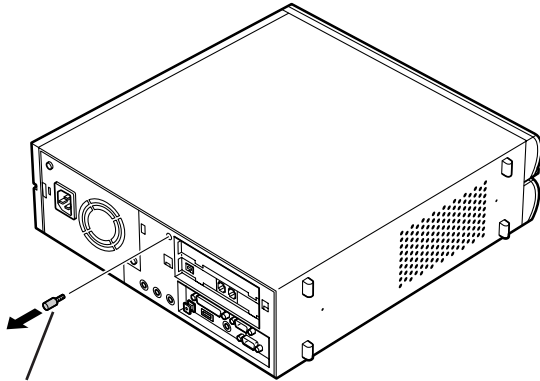
✓チェック!!

外したネジをなくさないように、気をつけてください。

✓チェック!!

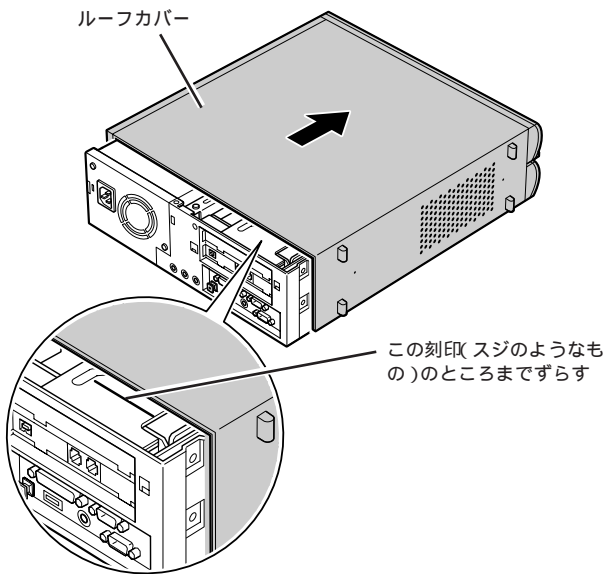
スタビライザを落下させないよう、スタビライザを手を持って取り外してください。

7 本体背面のネジを 1 本外す



このネジは手で回して外せます

8 ルーフカバーを下図のように少し前にずらして



この刻印(スジのようなもの)のところまでずらす

✓チェック!!

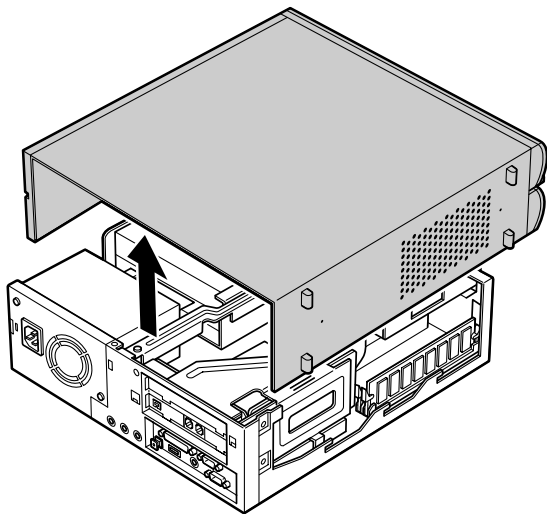
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

✓チェック!!

- ・ ルーフカバーを取り外す際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ ルーフカバーを取り外す際は、CD-ROMドライブのカバーをひっぱったりしないでください。カバーが破損する場合があります。

9

そのままゆっくり上方方向に持ち上げて取り外す

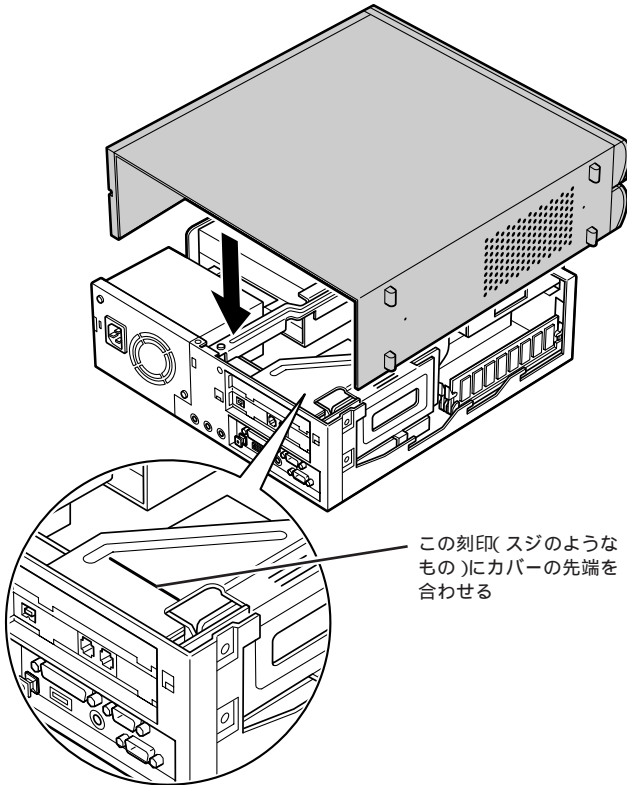


ルーフカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1

ルーフカバーの先端を本体背面の刻印に合わせるようにして下におろす

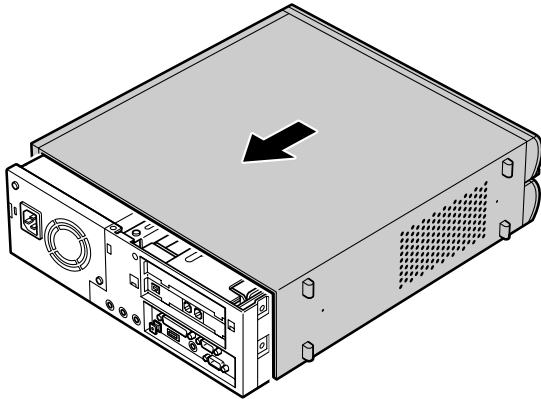


✓チェック!!

- ・このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際は、CD-ROMドライブのカバーを押しついたりしないでください。カバーが破損する場合があります。

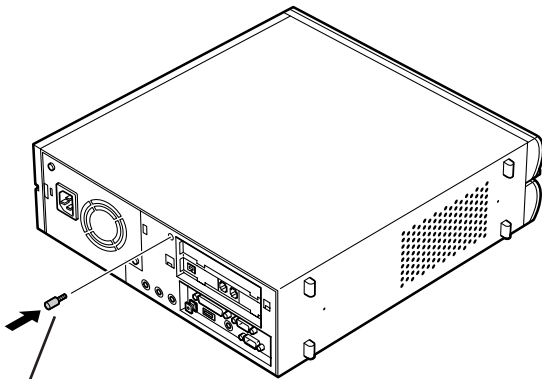
2

ルーフカバーを本体背面側にスライドする



3

本体背面をネジで固定する



このネジは手で回して取り付けます

4

スタビライザをもとどおりに取り付ける

5

「ルーフカバーの外し方」の手順3(p.27)で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

📖 参照

スタビライザの取り付けについて『はじめにお読みください』PART2の「パソコン本体にスタビライザを取り付ける」

📖 参照

ケーブルの接続 『はじめにお読みください』の「PART2 パソコンの接続をする」

P A R T

3

USB 対応機器を使う

USB コネクタには、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB 対応機器の使い方について説明します。

ユーエスビー

USB とは

USBは、パソコン用インターフェイスの規格の一つです。まずは、このパソコンでUSB対応機器を使うための基礎知識を覚えましょう。

USBは、Universal Serial Bus(ユニバーサル シリアル バス)の頭文字をとったものです。

用語

インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

USBなら簡単接続

USB対応機器は、電源を入れた状態のまま接続します。

本体とディスプレイの電源を入れて
Windowsを起動する(p.36)



必要に応じてUSB対応機器側の
設定を行う

USB対応機器のマニュアルで確認してください。



USBコネクタにプラグを差し込む(p.37)

パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。



正しく接続できたか確認する(p.39)

確認のしかたは、機器によって異なります。



設定が終わったら準備完了。
すぐに使い始めることができます。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら、また取り外す、というような使い方ができます。

参照

USB対応機器を使用するときの注意
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.40)

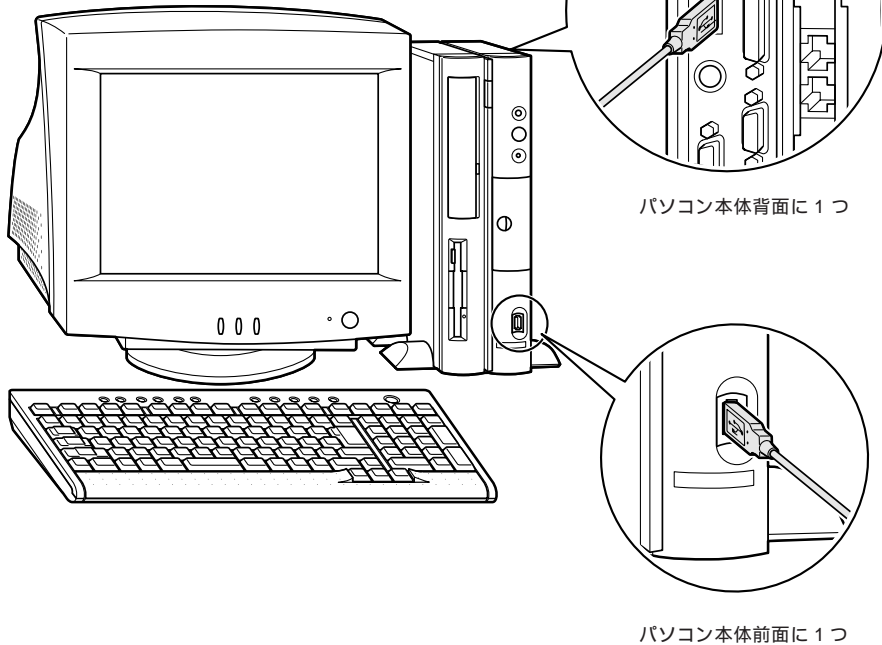
プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB コネクタについて

このパソコンには、本体の前面に1つ、背面に1つの合計2つのUSBコネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どちらのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、複数の機器を同時に使用することもできます。



標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USBハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

参照

各USBコネクタへの差し込み方
このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.37)

参照

USBハブについて このPARTの
「USBハブを使う」(p.40)

USB 対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態ですべてのUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

警告



雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

USB対応機器を接続する前には、次の準備が必要です。

接続する USB 対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば、用意しておきます。

パソコンとディスプレイの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態ですべて接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。



USB対応機器を使用するときの注意
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.40)

チェック!!

- ・USB対応機器によっては、このパソコンにあらかじめドライバが用意されているものがあります。
- ・USB対応機器に、Windows 95やWindows 98対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器をWindows Meで使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。

USB コネクタにプラグを差し込む

1


パソコン本体前面、背面の USB コネクタに、プラグを差し込む

プラグを差し込むときの向きは、どこの USB コネクタを使うかによって異なります。次の説明を参照して、正しく差し込んでください。




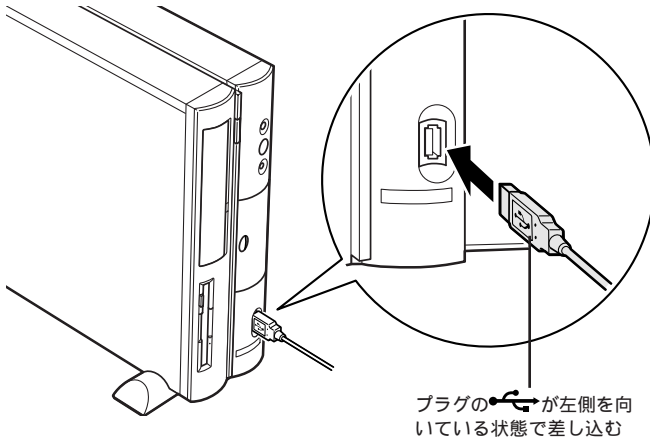
プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る



取り付けた機器によっては、タスクトレイに  が追加される

本体前面の USB コネクタを使う


本体前面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを左に向けてコネクタに差し込みます。

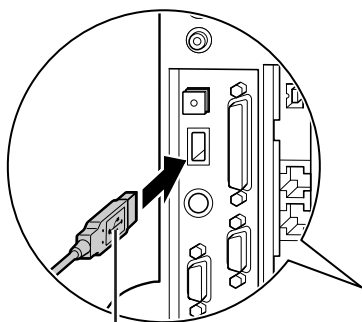



Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、PART 2 の「ドライバなどをインストールする」(p.23) をご覧ください。

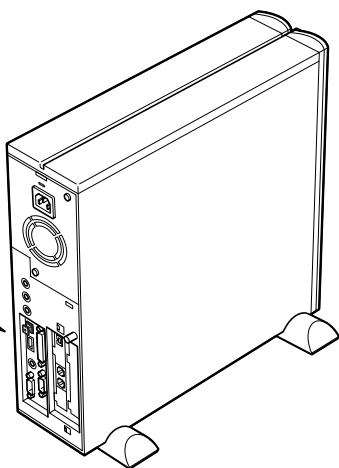


本体背面のUSBコネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを右に向けてコネクタに差し込みます。



プラグのが右側を向いている状態で差し込む



正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USB 対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。

その他の USB 対応機器

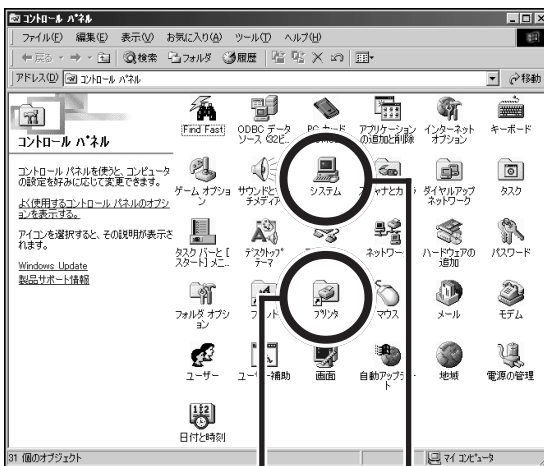
接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続した USB 対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。

機器によっては、続けて別の設定作業が必要になります。USB 対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

✓チェック!!



コントロールパネルに「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

コントロールパネルの画面



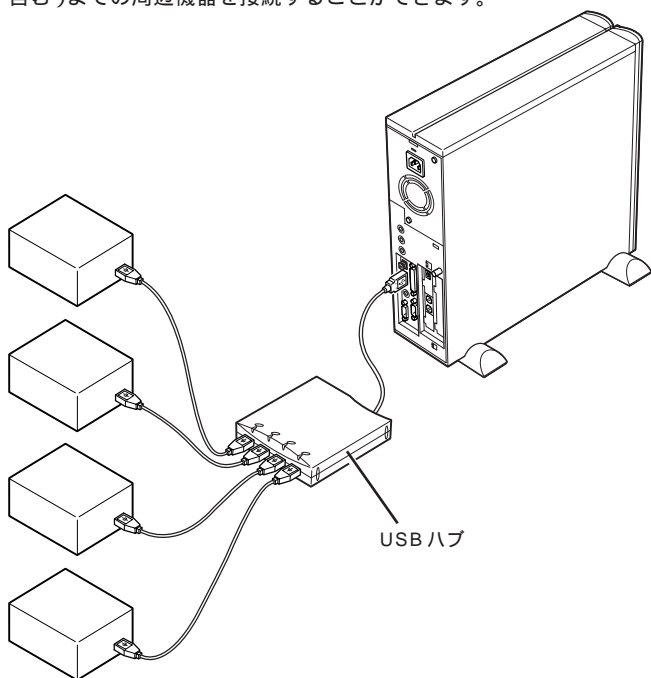
「プリンタ」 「システム」

USB 対応機器を取り外すときの注意

USB 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.25)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

USB ハブを使う

別売のUSB ハブ(PK-UP002 など)を使えば、1つのUSB コネクタを複数のUSB コネクタに分岐して増やすことができます。このUSB ハブを何台も使えば、規格上127台(パソコン1台あたり:USB ハブの数も含む)までの周辺機器を接続することができます。



✓チェック!!

USB ハブにUSB 対応機器を接続する場合、本体に先にUSB ハブを接続してから接続してください。

PK-UP002 の場合、4つのUSB 対応機器を接続することができます。

USB ハブの詳しい使い方については、USB ハブのマニュアルをご覧ください。

USB ハブには、CRTディスプレイの下に置くことのできるタイプ(PK-UP003)もあります。

✓チェック!!

複数のUSB 器機を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

USB 対応機器を使用するときの注意

- ・ USB コネクタの抜き差しを行うときは、3秒以上間隔をおいて行ってください。
- ・ USB デバイスが正常に認識されていない場合は、いったんUSB コネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- ・ 休止状態(またはスタンバイ状態)のときや休止状態(またはスタンバイ状態)に移行中、復帰中には、USB コネクタの抜き差しを行わないでください。
- ・ USB ハブ経由でUSB 対応機器を使用するときは、USB ハブをこのパソコンに接続してから、USB ハブにUSB 対応機器を接続して使用してください。USB ハブにUSB デバイスを接続したまま、USB ハブをこのパソコンに接続すると、正常にUSB 対応機器を認識できないことがあります。
- ・ USB のI/O リソースの変更を行った場合は、システムの再起動を行ってください。
- ・ デバイスマネージャでUSB ホストコントローラ(HC)を削除または、「使用不可」にするとUSB キーボードが使用できません。USB HC の削除、「使用不可」は絶対に行わないでください。

P A R T

4

IEEE1394 対応機器を使う

このパソコンにはIEEE1394 コネクタがあります。IEEE1394 コネクタは、一本のケーブルでパソコンとIEEE1394 対応機器の間を、高速でデータのやりとりをすることができます。デジタルビデオカメラなどで撮った動画をパソコンに取り込むときに便利です。

アイトリプルイーイチサンキュウヨン

IEEE 1394 について

このパソコンには、IEEE 1394のコネクタがあります。
はじめに、IEEE 1394 というインターフェイスについて、少し勉強しておきましょう。

IEEE 1394 って何？

IEEE 1394は、パソコンと周辺機器の間で、データを高速にやりとりするための新しい規格です。

転送速度が速いので、動画などのデータもスムーズにパソコンに転送することができ、接続方法も簡単です。パソコンの電源をそのつど切る必要がなく、電源を入れたままで周辺機器の取り付け、取り外しができます。さらに、プラグ&プレイに対応しているので、パソコンと機器の間の細かい設定は自動的に行われます。

このインターフェイスは、コンピュータの世界ばかりでなく、さまざまな機器に応用されることが期待されています。将来的には、パソコンとデジタルビデオカメラ、ビデオデッキ、プリンタ、MIDI機器、ハードディスクなどを、一種類のケーブルでつなぐことができるようになります。そうなれば、映像や音声もすべて一本のケーブルでデジタル信号で転送されます。

用語

IEEE(アイトリプルイー)
米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE 1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

用語

プラグ&プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。

つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

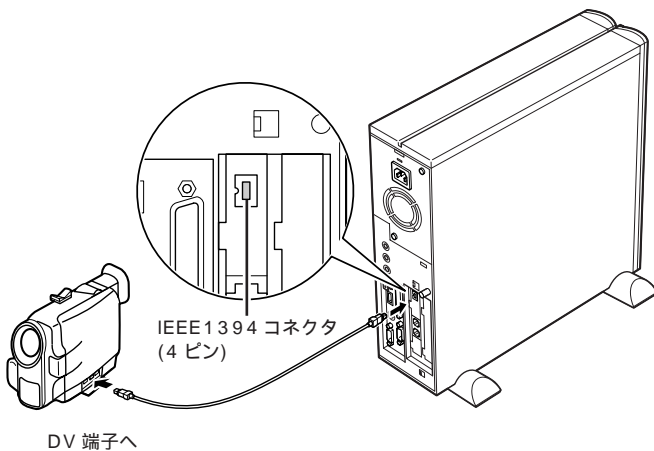
IEEE1394 対応機器 を接続する

ここでは、例としてデジタルビデオカメラをIEEE1394コネクタに接続する方法を説明しています。

デジタルビデオカメラの接続は、IEEE1394ケーブルを使ってパソコンのIEEE1394コネクタとデジタルビデオカメラのIEEE1394コネクタ(DV端子)を接続するだけです。

デジタルビデオカメラを接続する

IEEE1394ケーブルでこのパソコンとデジタルビデオカメラを接続します。このパソコンの本体背面には、IEEE1394コネクタ(4ピン)があります。



IEEE1394コネクタに接続できる周辺機器には、ほかに外付け用ハードディスク、MOディスクドライブなどがあります。

デジタルビデオカメラによっては、IEEE1394に対応した端子のことをDV端子と呼びます。

✓チェック!!

DV端子(4ピン)とこのパソコンのIEEE1394コネクタ(4ピン)を接続するには、別売のIEEE1394ケーブルが必要です。

✓チェック!!

接続の際にはプラグの向きやコネクタのピン数に注意してください。また、接続の際には周辺機器に添付のマニュアルもご覧ください。

IEEE1394コネクタは、入力用、出力用といった2種類のコネクタにはなっていません。デジタル信号の流れによって自動的に入出力が切り替わります。

映像の取り込み、編集をするには

デジタルビデオカメラの映像は、「VideoStudio」を使って取り込み、編集ができます。VideoStudioには、Video Wizardというウィザード形式で映像を取り込めるアプリケーションもあります。Video Wizardは、「スタート」ボタン「プログラム」「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」「Ulead Video Wizard」をクリックして起動できます。



基本的にはこのボタンの順に沿って作業する

作業に必要な情報はここに表示される

チェック!!



VideoStudioを使うには添付のアプリケーション CD-ROM からインストールを行います。

参照

VideoStudioのインストール方法
「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「VideoStudio」

次のホームページで、このパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考にしてください。
NEC のパソコン関連総合サイト「121ware.com」のアドレス (URL)
<http://121ware.com>

IEEE1394 対応機器を取り外すときの注意

IEEE1394 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2 の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.25)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

PART

5

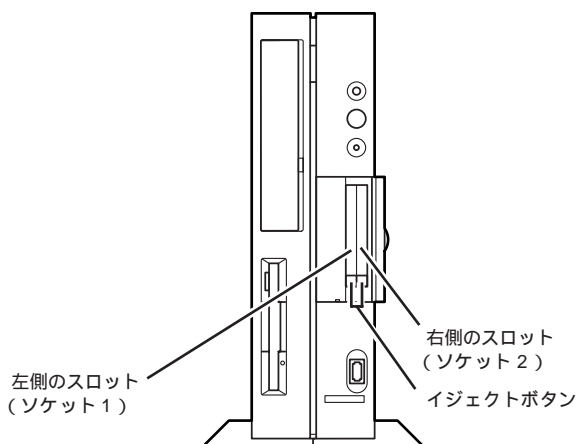
PCカードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

PCカードスロットについて

このパソコンにはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PCカードスロットは、PCカードをセットするためのスロットです。このパソコンには、図のように左右2つのPCカードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE またはTYPE のPCカードを1枚ずつ、または左右のスロットを合わせてTYPE のPCカードを1枚、セットして使用できます。



CardBus 対応 PC カードについて

CardBus(カードバス)はPCカードの拡張仕様で、高速なデータ転送ができます。

このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。

参照

PCカードを使用するときの注意
このPARTの「PCカードを使用するときの注意」(p.52)

PC Card Standard 準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE、TYPE、TYPEの3種類に分けられます。

- ・TYPE のPCカード
厚さ約 3.3mm
- ・TYPE のPCカード
厚さ約 5.0mm
- ・TYPE のPCカード
厚さ約 10.5mm

チェック!!

- ・このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- ・PCカード(LANカードを含む)を使用中は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。購入時には、約20分間何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。

参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART10 の「省電力の設定を変える」(p.94)

PCカードの入れ方と出し方

PCカードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態でも、PCカードスロットにセットできます。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

⚠ 注意



けが注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

✔ チェック!!

PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温、多湿、低温の場所に放置しない
- ・濡らさない
- ・重いものを載せない
- ・ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- ・曲げない
- ・PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

PCカードをセットする前に

- ・PCカードをセットする前に、このパソコンで使えるPCカードかどうかもう一度確認してください。
- ・PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなります。
- ・PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。このパソコンでは、PCカードの表面(ラベルの貼ってある面)を左に向けて差し込んでください。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- ・休止状態またはスタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。休止状態またはスタンバイ状態時のデータが消えて、正常に復帰できなくなってしまうことがあります。

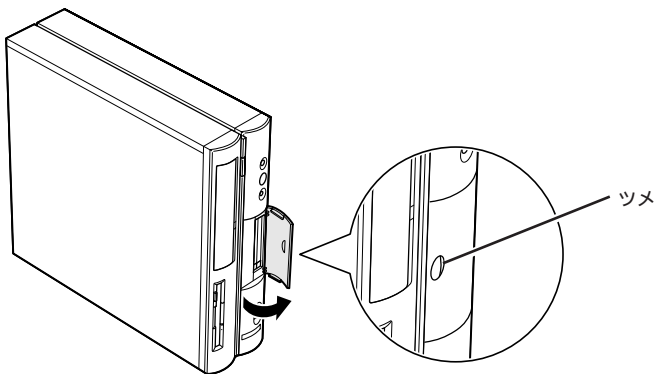
PC カードをセットする

1

パソコンの電源が入っている場合は、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

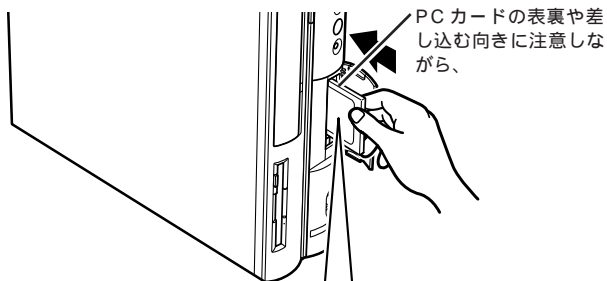
2

本体前面の PC カードスロットカバーを開ける
ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。

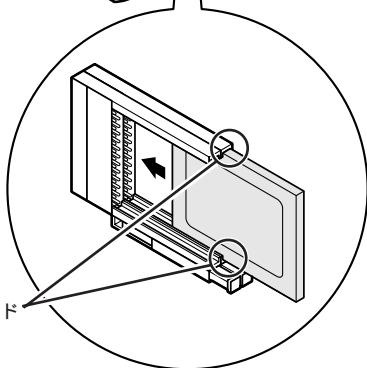


3

用意した PC カードを図のように持ち、PC カードスロットに静かに差し込み、



ガイドに沿って PC カードをまっすぐに差し込む



PC カードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

✓チェック!!

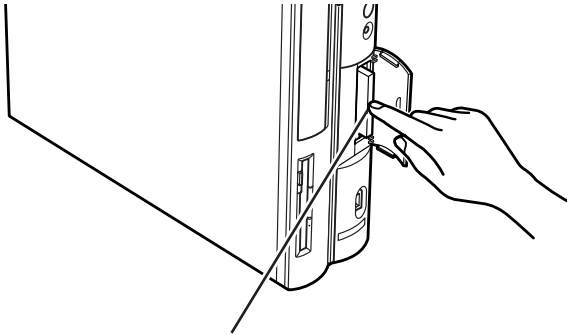
PC カードをセットする前に、このパソコンで使える PC カードかどうかもう一度確認してください。

✓チェック!!

PC カードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています (p.47 参照)。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。詳しくは、PC カードのマニュアルをご覧ください。

4

PCカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする




カチッと音がするまで、PCカードを完全に押し込む



PCカードを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る



PCカードの種類によっては、タスクトレイに  が追加される


PCカードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

PCカードのデータを見る

PCカードのデータは、デスクトップの「マイコンピュータ」の中のPCカードのデータが入っているドライブをダブルクリックすると表示されます。購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、Fドライブ  になります。なお、デスクトップの「マイドキュメント」の中の「My Pictures」フォルダ内に画像データを移動させると、縮小表示された画像を見ることもできます。また、データが入っているフォルダの設定を、「表示」-「縮小表示」で変更してもデータを一覧表示できます。

✓チェック!!

- ・使用するPCカードによってはPCカードスロットカバーが閉まらないものがあります。
- ・イジェクトボタン付きのPCカードアダプタをPCカードスロットにセットしたときは、PCカードスロットカバーを閉めないでください。PCカードアダプタのイジェクトボタンが押され、アダプタに装着したメモリカード等が外れることがあります。
- ・コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

📖参照

ドライバのインストールについて
PART2の「ドライバなどをインストールする」(p.23)

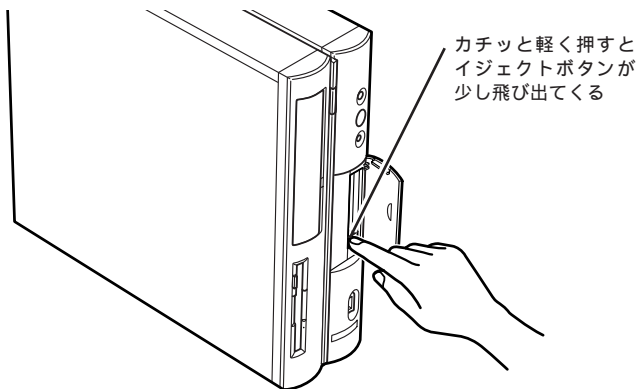
PC カードを取り出す

1

「周辺機器の取り外しと再接続」(p.25)の手順 1 ~ 6 を行う

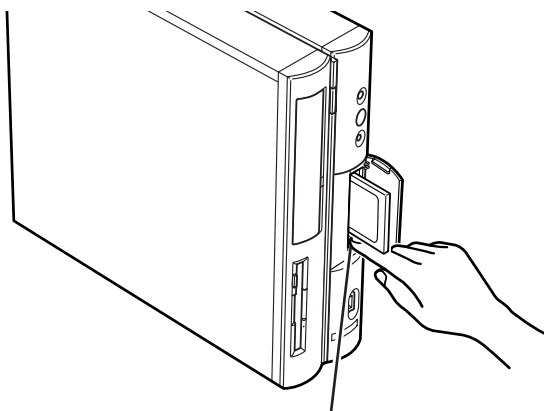
2

イジェクトボタンを軽く押す



3

もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまでイジェクトボタンをしっかりと押し込むとセットされていたPCカードが少し飛び出す

✓チェック!!

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

✓チェック!!

- ・ PCカードを2枚セットしたときは、同時に取り出さずに、1枚ずつイジェクトボタンを押して取り出してください。
- ・ PCカードを2枚セットしている場合、イジェクトボタンを押すときに、手順1で指定したPCカードとソケット番号の対応を間違えないようにしてください。どちらのロットが分からなくなったときは、「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」で確認できます。

📖参照

PCカードスロットのソケット番号の確認 このPARTの「PCカードスロットについて」(p.46)

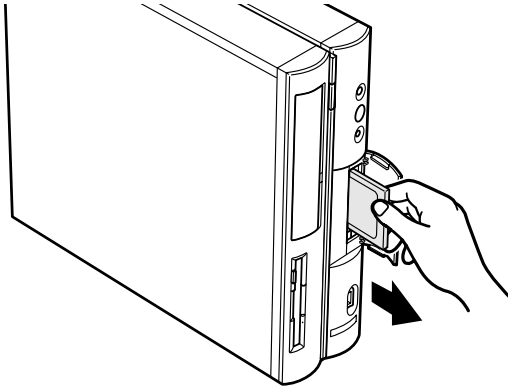
ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PCカードスロットにセットされていたPCカードが、少しだけ飛び出します。

✓チェック!!

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかりと押し込んでください。

4

出てきた PC カードを、まっすぐに静かに引き抜く



5

PC カードスロットカバーを閉める
「カチッ」と音がするまで押してください。

✓チェック!!

PCカードを取り出したときに「予期しないPCカードの取り外し」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

✓チェック!!

イジェクトボタンが出ている状態ではカバーを閉めることができません。

PC カードを使用するときの注意

- ・ アプリケーションを使用中はPCカードのセットや、取り出しはしないでください。
- ・ 「PCカードを取り出す」(p.50)の手順を行わずに、PCカードスロットからPCカードを取り外しても、警告が表示がされないことがあります。
- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できない場合があります。
- ・ このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。
- ・ マルチファンクションカード(LANとモデムなど2つの機能を兼ね備えたPCカード)とATAカードを同時に使用する場合は、右側のPCカードスロット(ソケット2)にマルチファンクションカードを、左側のPCカードスロット(ソケット1)にATAカードをセットしてください。
- ・ CardBus対応PCカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生することがあります。この場合は、Windowsを再起動すると、正常にドライバの組み込みができることがあります。
- ・ PCカードスロットにATAカードをセットにしているときにスタンバイ状態にすると、通常よりスタンバイ状態から復帰するのに時間がかかります。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態にするときには、必ずPCカードをPCカードスロットから取り外してください。
- ・ PCカード(LANカードを含む)を使う場合は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。このパソコンは、購入時には20分以上何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。

参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART10の「省電力の設定を変える」(p.94)

P A R T

6

PCI ボードを使う

このパソコンには、ハードディスクなどの SCSI インターフェイス対応機器の増設に必要な SCSI インターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類の PCI ボードを取り付けることができます。

PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

LAN(ネットワーク)ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

3D グラフィックアクセラレータボード

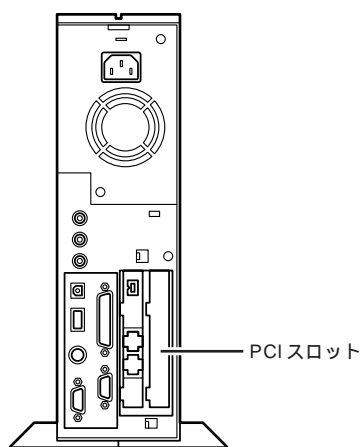
3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。

これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

PCI スロット

このパソコンでは、下の図のように、1つのPCIスロットを使用できます。スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。



参照

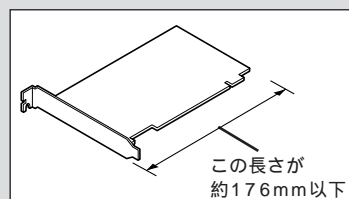
SCSI インターフェイス対応機器
「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.67)

チェック!!

1M バイト空間のメモリリソースを使用する PCI ボードは、正常に動作しない場合があります。

チェック!!

- ・このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられない場合があります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。



PCIボードの取り付け と取り外し

ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法を説明します。

⚠ 注意



PCIボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

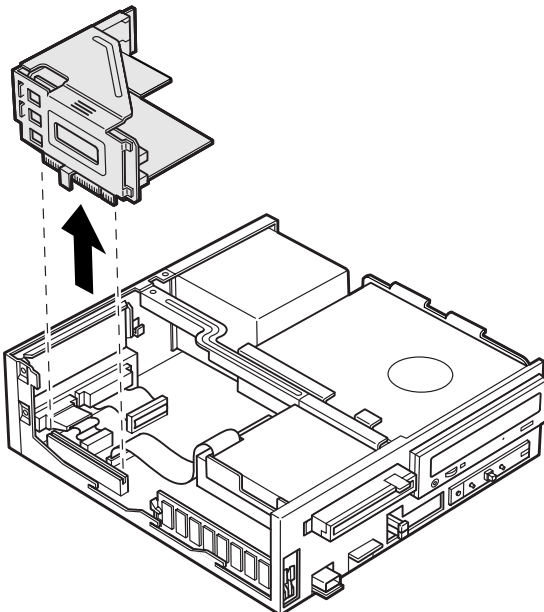
PCIボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

PCIユニットを上へ引き抜くようにして取り外す



✔ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

PCIボードを取り付けるときには、必ずPCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

📖 参照

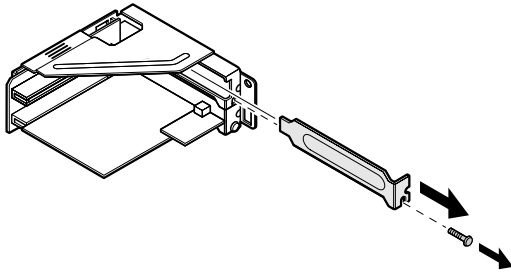
ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

✔ チェック!!

- ・電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・PCIユニットの取り付け、取り外しをするときは、PCIユニットやパソコン本体内部の部品、ケーブルなどを破損しないよう、慎重に行ってください。

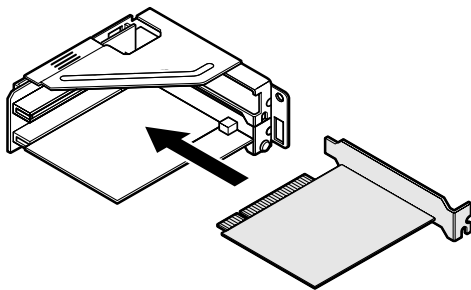
3

PCIユニットを下の図のような向きに
してから、スロットカバーをとめているネジ1本を外し、
スロットカバーを取り外す

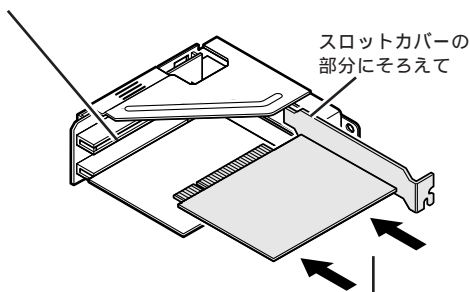


4

PCIボードを、両手で支えながらスロットに
慎重に差し込む



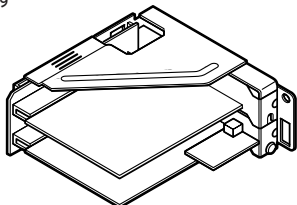
PCIボードのツメをPCIユニット
のコネクタにひっかけて



スロットカバーの
部分にそそえて

ボード全体に均等に
力を加えて強く押し
込むようにすると

うまく差し込めます



チェック!!

- ・スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。
- ・PCIボードを持つときは、ボード上の部品やツメ(端子)部分に触れないように注意してください。
- ・外したネジは、PCIボードを固定するときに使います。なくさないように気をつけてください。

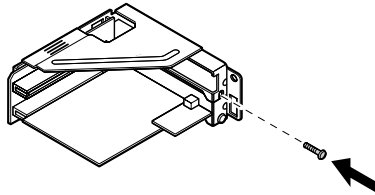
PCIボードをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIユニットのコネクタにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

チェック!!

しっかりと差し込んでおかないと、故障の原因になります。

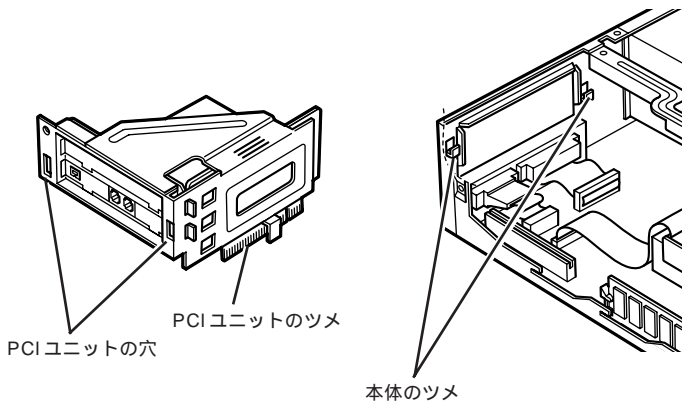
5

手順3 で外したネジ 1 本を使って、PCI ボードを固定する

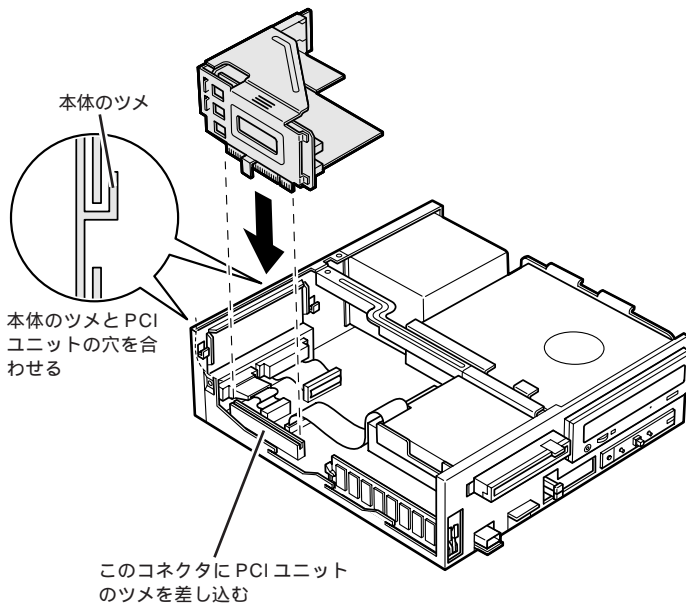


6

PCI ユニットを本体に取り付ける



PCIユニットの穴を本体背面内側にあるツメに合わせてから、本体のコネクタにPCIユニットのツメを差し込みます。



PCIユニットをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。PCIユニットのツメの先端が本体のコネクタにきちんと、合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

7

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

PCIボードの取り外し方

PCIボードの取り外しは、PCIボードの取り付けと逆の手順で行ってください。

 参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2
の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

P A R T

7

メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。

メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設 RAM サブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。

どのくらいメモリを増やすかを定める(p.61)

このパソコンでは、最大 512M バイトまで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設 RAM サブボード等を準備します。

増設 RAM サブボードを 取り付ける(p.62)

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設 RAM サブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらルーフカバーを元に戻します。

メモリが増えたかどうか確認する(p.65)

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

このパソコンで使える増設 RAM サブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設 RAM サブボード」というボードを使います。

このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設 RAM サブボードを使うことができます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M031	64M バイト(PC133)
PK-UG-M032	128M バイト(PC133)
PK-UG-M033	256M バイト(PC133)

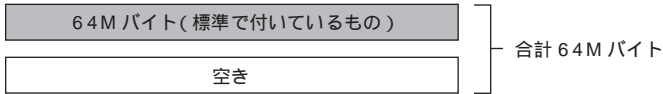
DIMM (ディム) は、Dual Inline Memory Module の頭文字をとったものです。

✓チェック!!

このパソコンでは、「SIMM (シム)」と呼ばれるタイプの増設 RAM サブボードは使用できません。間違って購入しないように注意してください。

メモリの増やし方の例

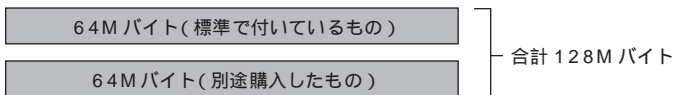
このパソコンには、増設RAMサブボード(DIMM)を差し込むコネクタ(スロット)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに64MバイトのRAMサブボードが付いています。



空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で512Mバイト(256Mバイトの増設RAMサブボード×2枚)まで増やすことができます。

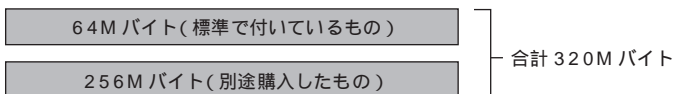
・例1: 128Mバイトにする場合

空いているコネクタの1つに64Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で付いている64Mバイトのメモリと合わせて128Mバイトにすることができます。



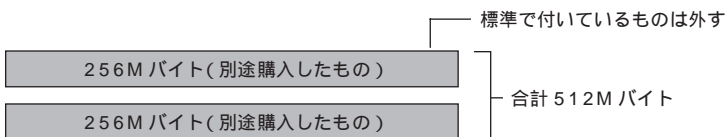
・例2: 320Mバイトにする場合

256Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。



・例3: 512Mバイト(最大)にする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、256Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。



増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準のRAMサブボードは大切に保管してください。

増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

ここでは、増設RAMサブボード(RAMサブボード)の取り付け方と、取り外し方を説明します。

⚠ 注意



発火注意

増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。



けが注意

増設RAMサブボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

ボードを取り扱うときに気をつけること

増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

増設RAMサブボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

✔ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

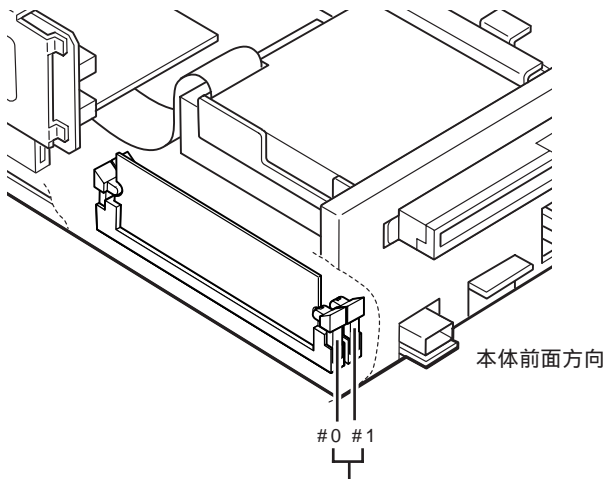
📖 参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

✔ チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

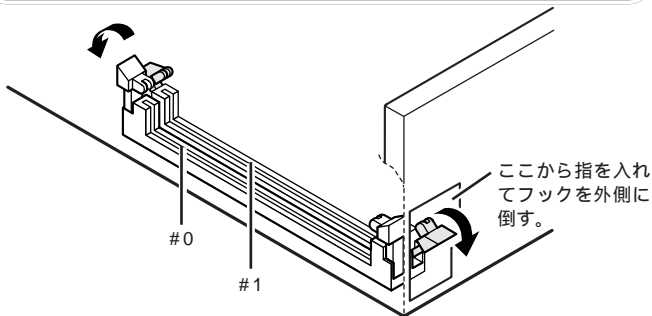
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設RAMサブボード用コネクタがあります。本体外側に近い方から、#0、#1と呼びます。

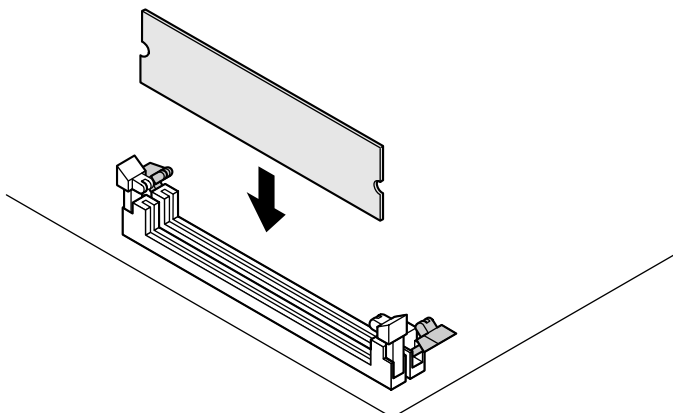
2

ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



3

切り欠き㊦の方向とコネクタの溝の位置が合うように、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む

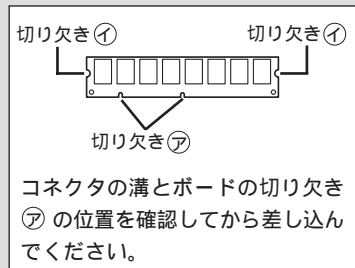


チェック!!

お使いの機種によって、本体内部の形状が異なります。

左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。

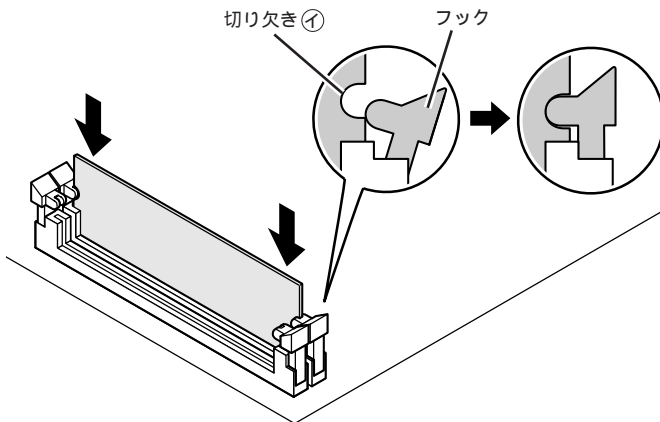


チェック!!

- ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

4

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む



5

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

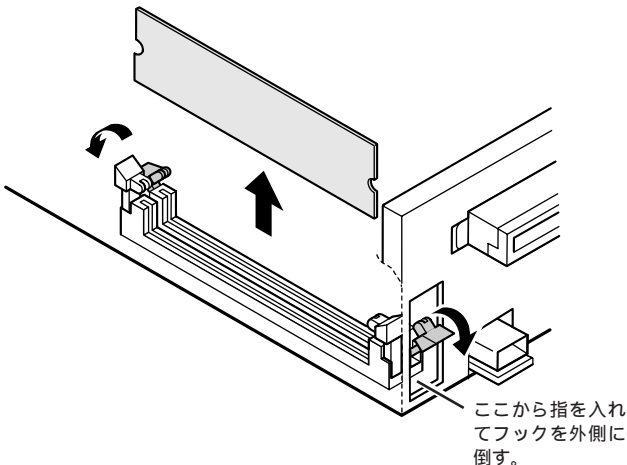
RAM サブボードの取り外し方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き⑦をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、その際に、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

📖参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

✓チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。#0のRAMサブボードも同じ方法で取り外せます。

✓チェック!!

- ・フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- ・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、大切に保管してください。

📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

確認のしかた

1

サポートセンタを起動する

アクティブメニューNXの「サポートセンタ」をクリックします(キーボードの【サポート】ボタンを押して起動することもできます)。



「サポートセンタ」の画面が表示されます。

2

「パソコンの情報」をクリック



メモリはWindows Meの「システム情報」からも確認することができます。
('スタート'-'プログラム'-'アクセサリ'-'システムツール'-'システム情報')

3

メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する
(ここでは、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されます)

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

メモリが正しく取り付けられているか？

このパソコンで使える増設RAMサブボードを取り付けているか？

✓チェック!!

- ・ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。
- ・メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後にディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

P A R T

8

SCSI インターフェイス対応機器を使う

このパソコンで SCSI (スカジー) 機器を使うには、PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードが必要です。ここでは、SCSI の基礎知識、SCSI インターフェイスボードの取り付け方、SCSI インターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

SCSI 機器を使うには

このパソコンで SCSI 機器を使うには、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードを取り付ける必要があります。ここでは、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードの取り付け方について説明します。

SCSI 機器の接続は、次のような手順で行います。

必要なものを用意する(p.71)

SCSI 機器のほか、PCI スロット用の SCSI インターフェイスボードや SCSI ケーブル、ターミネータが必要です。

本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける(p.72)

本体のカバーを開けて、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けます。

SCSI 機器をボードの SCSI コネクタに接続する(p.73)

各機器の SCSI ID を設定したら、ボードの SCSI コネクタに、SCSI ケーブルを使って接続します。

SCSI 機器の電源を入れる

パソコン本体の電源を入れる

✔チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

📖参照

自動的に休止状態にならないように設定を変更する PART10の「省電力の設定を変える」(p.94)

✔チェック!!

SCSI カードは CardBus 対応のものをお使いください。SCSI カードの取り付け方は、一般の PC カードと同様です。

📖参照

SCSI カードを取り付ける PART5の「PC カードの入れ方と出し方」(p.47)

📖参照

SCSI ID この PART の「SCSI ID について」(p.70)

SCSI インターフェイスについて

ここでは、SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

✓チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

📖参照

自動的に休止状態にならないように設定を変更する PART10の「省電力の設定を変える」(p.94)

接続できる SCSI 機器

SCSI インターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

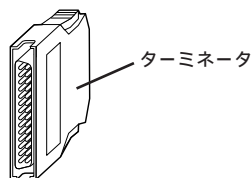
- ・ハードディスク
- ・CD-ROM ユニット
- ・DVD-RAM ドライブ
- ・DVD-ROM ドライブ
- ・CD-R/RW ドライブ
- ・MO ディスク(光磁気ディスク) など
ドライブ
- ・PD ユニット
- ・Zip ドライブ
- ・ミニカートリッジテープユニット
- ・カセット磁気テープユニット
- ・イメージスキャナ

SCSI に関する基礎知識

SCSI 機器の接続方法について

SCSI 機器は、「デージーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大7台)の機器をつなぐことができます。

また、その終端となる SCSI 機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



SCSI 機器が 1 台の場合



SCSI 機器が 3 台の場合



ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。

SCSI 機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用する SCSI 機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

SCSI ID について

SCSI機器は、SCSI ID という0～7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではありません)。

SCSI 機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

SCSI インターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- ・SCSIインターフェイス
- ・SCSI-2インターフェイス
- ・Ultra SCSIインターフェイス
- ・Ultra Wide SCSIインターフェイス

SCSI-2インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。

それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

チェック!!

Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

用意するもの

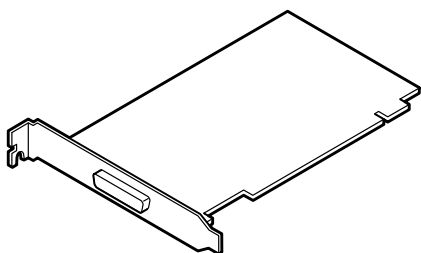
市販の SCSI インターフェイスボードや SCSI 機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

接続する SCSI 機器とそのマニュアル

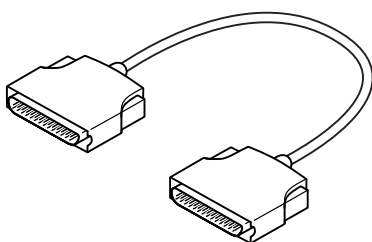
SCSI インターフェイスボード

PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードが 1 つ必要です。このパソコンで使用できる SCSI インターフェイスボードには、次のようなものがあります。

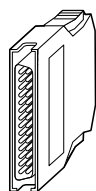
- ・Ultra SCSI インタフェースボード(Wide 対応)(PK-UG-X007)
- ・Ultra SCSI インタフェースボード(PK-UG-X014)



SCSI 機器接続ケーブル



ターミネータ(終端 BOX)



このパソコンで使用できるのは、「ハーフサイズ」の SCSI インターフェイスボード(長さが約 176mm 以下のもの)です。

また、SCSI カードを使うこともできます。SCSI カードは PC カードスロットに差し込みます。

参照

ハーフサイズ PART6 の「PCI スロット」(p.54)

チェック!

SCSI 機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応している SCSI インターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。

参照

SCSI インターフェイスの種類 前ページの「SCSI インターフェイスの種類」

ターミネータ(終端)機能を内蔵しているタイプの SCSI 機器を接続するときは、ターミネータ(終端 BOX)は不要です。詳しくは、SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

SCSI インターフェイスボードを取り付ける

SCSI インターフェイスボードは、パソコン本体の PCI スロットに取り付けます。取り付け方は、一般の PCI ボードと同様です。

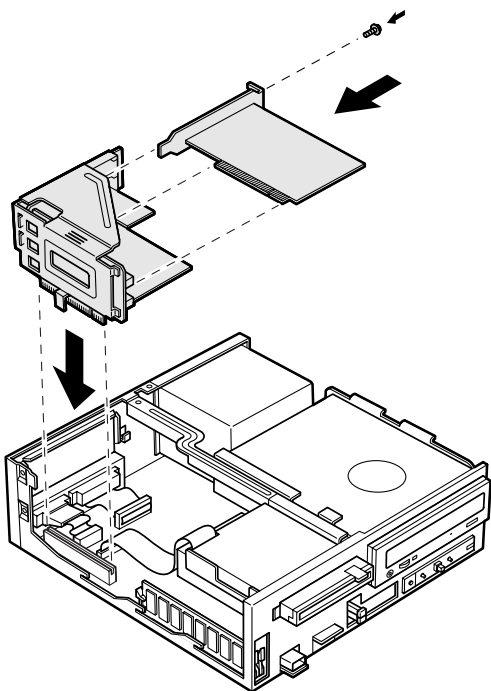
1

正しい手順で本体のルーフカバーと PCI ユニットを外す

2

正しい手順で、SCSI インターフェイスボードを PCI スロットに取り付ける

PCI スロットのスロットカバーを取り外してから、SCSI インターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、ネジで固定します。



3

正しい手順で PCI ユニットを取り付け、本体のルーフカバーを取り付ける

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。作業を行うときは、指をぶつけたり切ったりしないように注意してください。

📖参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

✓チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど本体に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

📖参照

ボードの取り付け方については「PART6 PCI ボードを使う」(p.53)

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。故障の原因になります。

SCSI インターフェイスボードを取り付けるときには、必ず SCSI インターフェイスボードに添付のマニュアルもご覧ください。

📖参照

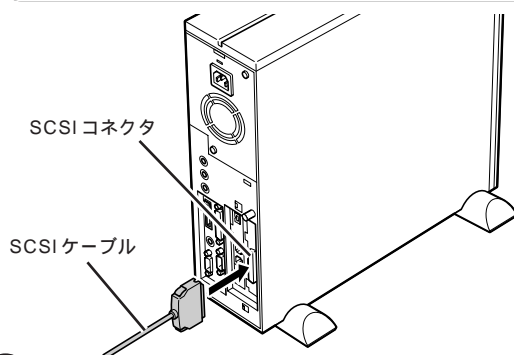
ルーフカバーの取り付け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

SCSI 機器を接続する

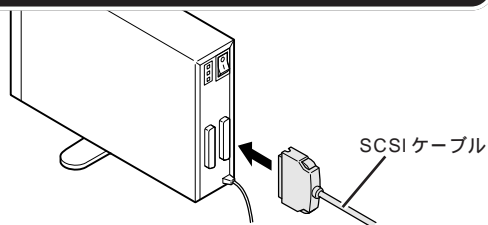
SCSI 機器は次のように接続します。

1 SCSI 機器の SCSI ID を設定する

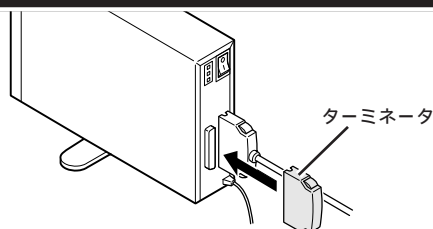
2 本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI ケーブルのプラグを差し込む



3 SCSI 機器の SCSI コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



4 SCSI 機器の残りの SCSI コネクタに、ターミネータを差し込む



SCSI ID の設定方法については、各 SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

☑チェック!!

- ・接続はパソコン本体と SCSI 機器の電源を切ってから行ってください。
- ・SCSI ケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっていきます。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

SCSI 機器の SCSI コネクタは通常 2 つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

複数の SCSI 機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう 1 本の SCSI ケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法で SCSI 機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

SCSI 機器がうまく動かないときは

取り付けた SCSI 機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

電源を入れる順序は正しいですか？

SCSI インターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前に SCSI 機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってから SCSI 機器の電源を入れ、その後でもう一度本体の電源を入れ直してください。

ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSI インターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

ケーブルが長すぎませんか？

また、SCSI インターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2 のデジチェーンには、ケーブルの総延長が 3m 以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSI ケーブルは取り付ける SCSI 機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

SCSI インターフェイスボードは認識されていますか？

SCSI インターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSI インターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSI インターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。


SCSI ID の設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器の SCSI ID の設定を確認してください。

参照

使用できるケーブルについて SCSI インターフェイスボードのマニュアル、SCSI インターフェイス対応機器のマニュアル

参照

正しく認識されない場合の対処 
「サポートセンタ」-「トラブル解決 Q&A」-「周辺機器」または Windows の「ヘルプとサポート」

9

ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。

ハードディスクを増設するには

このパソコンにハードディスクを増設する方法はいくつかありますが、ここでは、PCIスロット対応のSCSIインターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続します。

必要なものを用意する(p.77)

ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要です。

本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける(p.78)

本体のPCIスロットに、SCSIインターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。

増設ハードディスクをボードの SCSI コネクタに接続する(p.78)

取り付けたSCSIインターフェイスボードのコネクタに、SCSI機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。

増設ハードディスクの電源を入れる

パソコン本体の電源を入れる

ハードディスクをフォーマットする

パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。詳しくはハードディスクに添付のマニュアルで確認してください。

✓チェック!!

- ・このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。
- ・標準で本体に内蔵されているハードディスクを交換すると、サポートの対象外となります。

USB や IEEE1394 に対応しているハードディスクであれば、パソコン本体の電源を入れたまま取り付けることができます。

📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付け 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.67)

📖参照

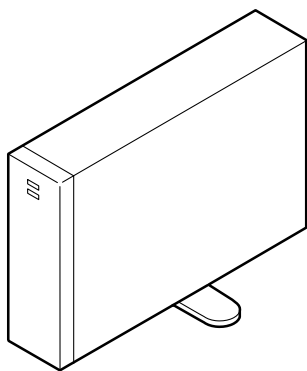
フォーマットのしかた ハードディスクに添付のマニュアル

用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

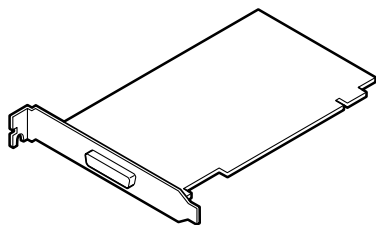
ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。



SCSIインターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。PART8の説明や機器に添付のマニュアルをご覧ください。SCSIインターフェイスボードには、PCカードスロットにセットできるタイプ(SCSIカード)もあります。



ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

参照

SCSIインターフェイスボードの取り付け「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.67)

本体にハードディスクを接続する

パソコン本体に SCSI インターフェイスボードを取り付けた後で、ボードの SCSI コネクタにハードディスクを接続します。

1

本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する

2

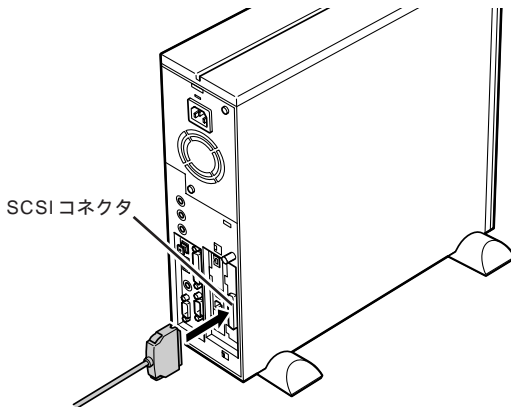
正しい手順で、本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

3

接続しようとするハードディスクの SCSI ID を確認し、必要ならば設定を変更する
0 ~ 6 のいずれかの番号に設定します。他の SCSI 機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

4

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI 機器接続ケーブルのプラグを差し込む



外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSI インターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付けと設定 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」 (p.67)

SCSI 機器は、SCSI ID という 0 ~ 7 の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

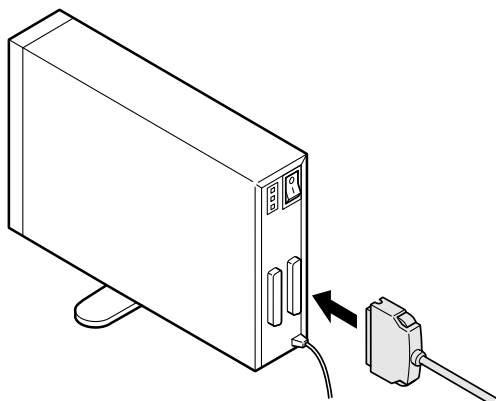
✓チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

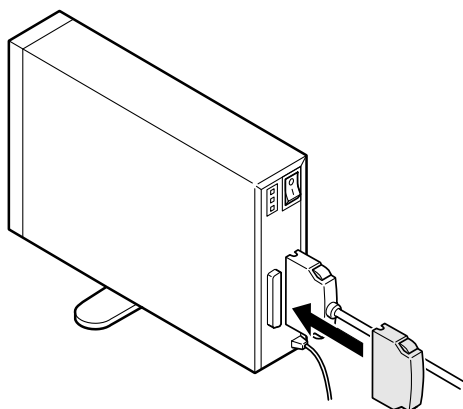
5

増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



6

増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



7

必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

✓チェック!!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

📖参照

ターミネータについては PART 8 の「SCSIに関する基礎知識」(p.69)

✓チェック!!

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

ハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルなどをご覧ください。ハードディスクを増設してドライブ番号が追加されると、CD-ROMドライブ(購入時はEドライブ)などのドライブ番号も変更されます。CD-ROMドライブを指定するようなアプリケーションをお使いの場合は注意してください。

PART

10

ハードウェアの活用術

トラブルを解決するヒントやハードウェアを使うときのポイントについて説明しています。手順通りに取り付けたのに増設した周辺機器が使えないときやパソコンが起動しなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。

困ったときのチェックポイント

マウス

キーボード

ハードディスク / フロッピーディスク

省電力機能

困ったときの チェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

周辺機器に添付のマニュアルに沿って正しく取り付けましたか？

周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けたか、正しく設定したか、もう一度確認してください。また、そのマニュアルにQ&A情報があれば参照してください。

電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。

また、その機器がWindows Meに対応しているかどうかを確認してください。

ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ(やソフト)を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。


ドライバが正しく組み込まれているかどうかは、デバイスマネージャの画面で確認できます。組み込んだ機器のアイコンに黄色い「！」や赤い「×」が付いていると

きは、その周辺機器が正常に動作していないことを表しています。Windowsヘルプや周辺機器のマニュアルをご覧になり、設定し直してください。

ドライバの情報は、このパソコンの「サポートセンタ」にあります。また、このパソコンに入っている追加情報や周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

参照

- ・ドライバについて PART2 の「ドライバなどをインストールする」(p.23)
- ・このパソコンのドライバ情報  「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「追加情報」-「周辺機器を使おうとしたら...」

周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。


設定はしましたか？

接続したあとで設定の必要な機器もあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、設定をしてください。


他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

参照

リソースの問題について  「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「周辺機器」またはWindowsの「ヘルプとサポート」

機器を取り外すときに正しい手順で取り外しましたか？

タスクトレイに  が表示されている機器は、正しい手順で取り外さないと正常にパソコンや機器が動作しなくなることがあります。

休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け / 取り外しをしませんでしたか？

休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け / 取り外しを行うと、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容が失われたり、復帰できなかったりすることがあります。周辺機器を休止状態またはスタンバイ状態にする前の状態に戻してから、電源を入れ直してください。


マウス

スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。

✓チェック!!

コントロールパネルの「マウスのプロパティ」画面では、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。

📖参照

- ・マウスの使い方について 「パソコンのいろは」、『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「マウス」
- ・マウスの設定  「添付ソフトの使い方」 「マウスの設定」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、拡大縮小させることができます。

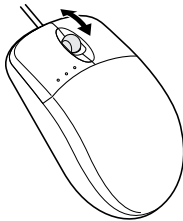
✓チェック!!

スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。

画面を上下方向にスクロールする

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにします。

スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

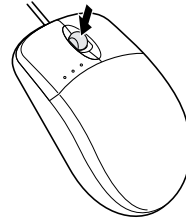


前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

画面を上下、左右方向にスクロールする

スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。



スクロールボタンを真下に押す。

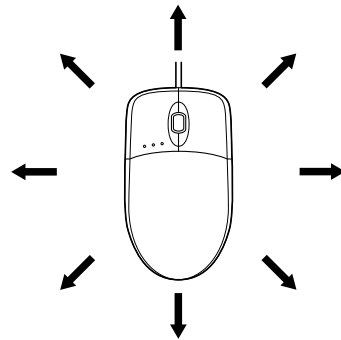


マウスポインタの形が  や  のように変わります。

✓チェック!!


スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

 や  が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。



マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。

✓チェック!!

- ・アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
- ・  が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。

ズーム機能を使う

✔チェック!

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。

参照

キーボードの使い方、日本語入力のしかた 『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「文字入力」パソコンのいろは」

キーの役割



一般的なキーの役割です。

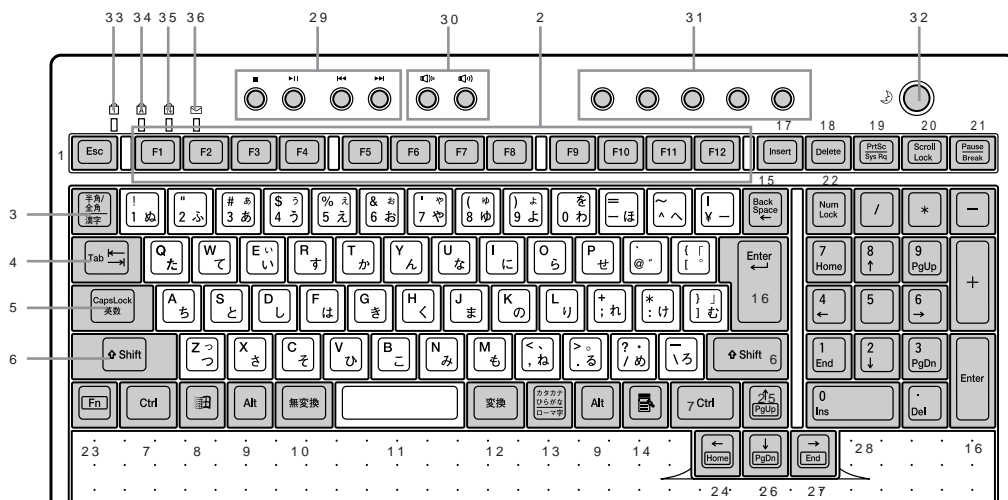
キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

- ・文字を入力するキー
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。
- ・コンピュータに指示を与えるためのキー
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの働きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーの名称

キーボード正面

- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角/全角/漢字】: 半角/全角/漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windows キー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】:
カタカナ/ひらがな/ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー
- 17 【Insert】: インサートキー
- 18 【Delete】: デリートキー
- 19 【PrtSc/SysRq】:
プリントスクリーンキー/システムリクエストキー
- 20 【ScrollLock】: スクロールロックキー
- 21 【Pause/Break】: ポーズ/ブレイクキー



- 22 【NumLock】: ニューメリックロックキー
- 23 【Fn】: Fn キー
- 24 【Home/ 】: ホームキー / カーソルキー
- 25 【PgUp/ 】: ページアップキー / カーソルキー
- 26 【PgDn/ 】: ページダウンキー / カーソルキー
- 27 【End/ 】: エンドキー / カーソルキー
- 28 【 】 【 】 【 】 【 】: カーソルキー
- 29 CD/DVD プレーヤボタン
- 30 ボリュームボタン
- 31 ワンタッチスタートボタン
- 32 【スリープ】: スリープボタン
- 33 ニューメリックロックキーランプ
- 34 キャップスロックキーランプ
- 35 スクロールロックキーランプ
- 36 メール着信ランプ

キーのロック


【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。

ニューメリックロックキーは【NumLock】を押すたびに、キャップスロックキーは【Shift】を押しながら【CapsLock】を押すたびにロック状態を切り替えることができます。

それぞれのキーがロックされているときにはキーボード左上のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます。

キーボード裏面

キーボード裏面には、PS/2 マウスコネクタ()があります。このコネクタには、添付のPS/2 対応マウスを接続します。

✓チェック!!

PS/2 マウスの抜き差しは、本体の電源を切った状態で行ってください。

📖参照

PS/2 マウスコネクタの位置 『はじめにお読みください』PART2の「マウスを接続する」

アプリケーションキーとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindows Me で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。


■ アプリケーションキー()


アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

■ Windows キー()

Windows キーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。


Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。


【】+【R】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する


【】+【M】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する

【Shift】+【】+【M】 【】+【M】でアイコン化しているウィンドウを元に戻す

【】+【F1】 Windows のヘルプを起動する

【】+【F】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する

【Ctrl】+【】+【F】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する

【】+【Tab】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

✓チェック!!





キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」画面で設定します。

📖参照

キーボードの設定  「添付ソフトの使い方」 「キーボードの設定」

Fn キーについて


Fnキーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

- 【Fn】+【】 【Home】を押したときと同じです。
- 【Fn】+【】 【End】を押したときと同じです。
- 【Fn】+【】 【PgUp】を押したときと同じです。
- 【Fn】+【】 【PgDn】を押したときと同じです。

✓チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」で行います。「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、文字入力やカーソル点滅の速度の調整、日本語入力システムの設定などができます。

📖 参照

「キーボードのプロパティ」で設定する  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」





ワンタッチスタートボタンの名前と役割

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動することができるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「CD/DVDプレーヤボタン」「ボリュームボタン」「ワンタッチスタートボタン」はキーボードの上部に並んでいます。

CD/DVD プレーヤボタン

音楽CD やフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD-Videoディスクなどの再生をコントロールできます。

各ボタンの役割は次の通りです。

- 1 【】: 停止
- 2 【】: 再生 / 一時停止
- 3 【】: 前のトラック / 巻き戻し
- 4 【】: 次のトラック / 早送り



✓チェック!!

- ・このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」は削除しないでください。CD/DVDプレーヤボタンの一部の機能が利用できなくなります。
- ・CD-R/RW モデルでは、DVD-Video ディスクは再生できません。

ボリュームボタン

パソコンから出る音楽CDやビデオCDなどの音の大きさを調節できます。

各ボタンの役割は次の通りです。

- 5 【】: ボリュームダウン
- 6 【】: ボリュームアップ

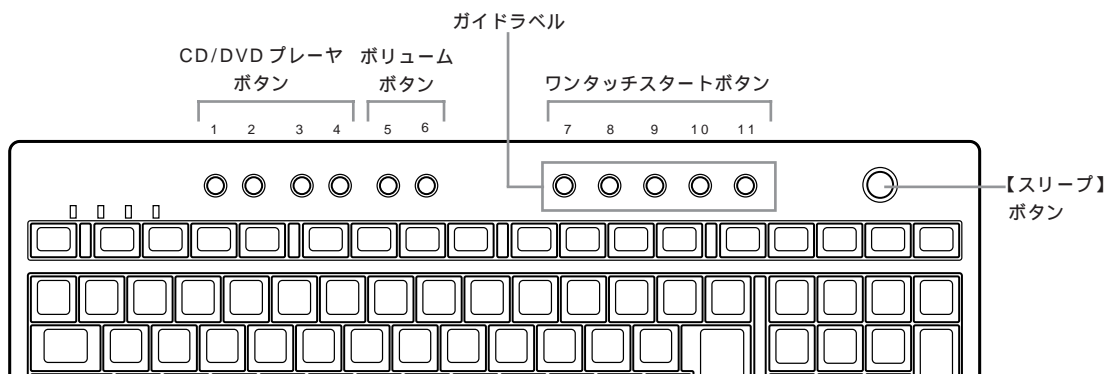
ワンタッチスタートボタン

7 【メール】ボタン

このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、メールボタンのご案内が表示されます)。

8 【インターネット】ボタン

このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。



9【サポート】ボタン

このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。

10【121ware】ボタン

このボタンを押すと、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」を見ることができます。

11【ユーザ】ボタン

購入時には何も登録されていません。好きなアプリケーションを登録できます。

【スリープ】ボタン

パソコン本体をスタンバイ状態にします。


ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。

▼チェック!

- ・Windows Meのセーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。
- ・【メール】ボタンと【インターネット】ボタンは、「インターネットするならBIGLOBE(BIGLOBEインターネット接続ツール)」を使ってBIGLOBEに入会すると、それぞれOutlook Expressとインターネットエクスプローラが起動するようになります。それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【メール】ボタンと【インターネット】ボタンでOutlook Expressとインターネットエクスプローラを起動させるには、ワンタッチスタートボタンの設定が必要です。

📖 参照

ワンタッチスタートボタンの設定  「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」

PC-9800シリーズの
キーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは、以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrtSc】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】 または【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

使用上の注意

N キーロールオーバー

N キーロールオーバーとは、複数のキーを押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、このパソコンのキーボードは疑似 N キーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

ハードディスク/ フロッピーディスク

ここでは、このパソコンに内蔵のハードディスクの使用上のポイントと、このパソコンで使用できるフロッピーディスクについて説明しています。

ハードディスクの取り扱い上の注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

- ・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・電源を切るときは、『はじめにお読みください』PART3の「電源の入れ方と切り方」で説明されている手順に従ってください。
- ・温度・湿度条件を守ってください。
温度 10 ~ 35 、湿度 20% ~ 80% (ただし、結露しないこと)
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。



ハードディスクを増設する「PART9 ハードディスクを増設する」(p.75)

ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる

このパソコンに内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。



バックアップ 『使っておぼえるパソコンの基本』前編PART6の「大切なデータの保管方法」、『困ったときのQ&A』PART1の「データとインターネット設定のバックアップ」、『添付ソフトの使い方』「バックアップ-NX」

使用できるフロッピーディスクの種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、以下のようなフロッピーディスクを使用できます。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き 1	フォーマット
2DD	640Kバイト	x	x
	720Kバイト		
2HD	1.2Mバイト	2	x
	1.44Mバイト		

- 1 WindowsまたはMS-DOSでフォーマットされたものが使用できます。
- 2 3モードFDドライバのインストールが必要です。アプリケーションCD-ROMからインストールしてください。3モードFDドライブについて詳しくは、C:¥Windows¥Options¥other¥3modeFD フォルダにあるReadme ファイルをご覧ください。



1.2Mバイトのフロッピーディスクは、Windows Meの「ディスクのコピー」ではバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。

省電力機能

パソコンを使っていないときに、消費電力を節約する省電力機能について説明します。

概要

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切る場合、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかるなど手間が多いものです。このパソコンには、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

電源の状態

パソコンの電源の状態には、次の4種類があります。

電源が入っている状態

パソコンの電源を入れて、Windowsが起動している状態です。

電源が切れている状態

Windowsを終了して、パソコンの電源を切った状態です。

休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了してパソコンの電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に「休止状態」になるように設定されています。

スタンバイ状態

ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、パソコンの電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。

このような休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

省電力機能の特徴

	休止状態	スタンバイ状態
電力	スタンバイ状態に比べ消費しない	わずかに消費する
復帰までの時間()	約30秒	約20秒
こんなときに便利	長時間作業を中断するとき	すこしの間作業を中断するとき

() 復帰までの時間は、使用環境により異なるため、おおよその目安にしてください。

チェック!!

- ・アプリケーションによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイ状態から復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。
- ・Windows Meで電力を節約する機能を使うための電源管理のモードは、ACPIモードです。APMモードは使用できません。

用語

ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで行うためのしくみです。

用語

APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をBIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

電源ランプ、ディスプレイの表示

電源の状態によって、電源ランプ、ディスプレイの表示は次のように変化します。

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

別売のディスプレイでは、異なることがあります。

省電力機能を使う

休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできないかったり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに作業前の内容が復元できなかったり、パソコンが正しく動作しなかったりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないでください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないでください。

✓チェック!

このパソコンは、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に休止状態になるように設定されています。自動的に休止状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないPCカード(LANカードを含む)を使用しているとき
- ・SCSI インターフェイスを使って機器を接続しているとき
- ・プリンタが出力しているとき
- ・音声や動画を再生しているとき
- ・フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
- ・休止状態やスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使っているとき
- ・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているとき
- ・「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」を実行しているとき
- ・モデムを使ってインターネットに接続しているとき

また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中に、次の操作を行わないでください。

- ・フロッピーディスク、CD-ROMなどを入れ替える
- ・PCカードの抜き差しをするなど、このパソコンの環境を変更する

休止機能

休止状態にする

購入時の状態では、休止状態にするには次の2つの方法があります。

- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「休止状態」を選ぶ
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック
「休止状態」を選び、「OK」をクリック
- ・一定時間後に自動的に休止状態にする
このパソコンは、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと自動的に休止状態になるように設定されています。

📖参照

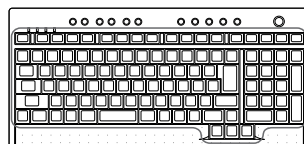
自動的に休止状態にならないように設定を変更する
この項の「省電力の設定を変える」(p.94)

休止状態にする前の状態に戻す

休止状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

- ・電源スイッチを押す
- ・FAX モデムによるリング機能を使う
電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このとき、パソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押してください。



スタンバイ機能

スタンバイ状態にする

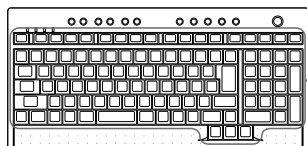
購入時の状態では、スタンバイ状態にするには次の2つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押す
- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック
「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリック

スタンバイ状態にする前の状態に戻す

スタンバイ状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

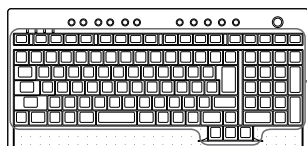
- ・ マウスを動かすか、キーボードのキーのいずれかのキー()を押す
それでも画面が表示されない場合はもう一度同じ操作をしてください。



()この中のキーのいずれか

- ・ FAX モデムによるリング機能を使う
電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このとき、パソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押してください。



()この中のキーのいずれか

省電力機能を使うときの注意

休止状態にするときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続している場合は、休止状態にすると強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

スタンバイ状態にするときの注意

- ・ 通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときは、必ず通信を終了してからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDなどが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に時間がかかることがあります。
- ・ スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。

休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意

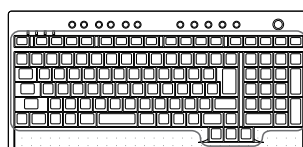
- ・ パソコン本体へ機器を取り付けたり、パソコン本体から機器を取り外したりしないでください。
- ・ スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。
 - 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れた
 - 停電が起きた
 - 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

- ・ 復帰直後にアプリケーションが正常に動作しない
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・ 電源スイッチを押しても復帰しない(休止状態のみ)
- ・ マウスを動かしたり、キーボードのキーのいずれかのキー()を押しても復帰しない。それでも画面が表示されないで、もう一度同じ操作をしたが復帰しない(スタンバイ状態のみ)



()この中のキーのいずれか

休止状態からの復帰がうまくいかなかったときには

『困ったときのQ&A』PART2の「省電力機能」をご覧ください。

スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき

電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻ることがあります。必要場合は再設定してください。

省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

アプリケーションや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなアプリケーションや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になる時間を変更することもできます。

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリック

「電源の管理」アイコンをダブルクリック

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されません。

チェック!!

「コントロールパネル」に「電源の管理」アイコンが表示されていない場合は、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。

「電源設定」タブをクリック

スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。

チェック!!

休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」の を にしてください。

「OK」をクリック

その他の設定を変更する

「電源の管理」では、次の設定も変更できます。

- ・ 省電力の設定ファイルの変更
省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。
- ・ 電源スイッチの役割
本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。

参照

「電源の管理」での設定 Windowsのヘルプ、サポートセンター

P A R T

11

さらに広がるパソコンワールド

ここでは、パソコンの使い方を広げるアプリケーションを紹介します。自分流にパソコンを使いこなすための参考にしてください。

携帯電話と連携する

CD-R や CD-RW にデータを書き込む

携帯電話と連携する

このパソコンでは、携帯電話に登録されている情報を編集したり、パソコンで作成した予定表や連絡先、画像などのデータを、iモード機能を備えている携帯電話で閲覧したりできます。

携帯電話に登録されている情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録されている電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集できます。「携快電話 3N」というアプリケーションを使います。「携快電話 3N」では、着信メモディやメールの編集もできます。



「携快電話 3N」を使うには

・「携快電話 3N」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。このパソコンに添付のアプリケーション CD-ROM からインストールしてお使いください。



「携快電話 3N」のインストール サポートセンター
「アプリケーションの追加と削除」-「携快電話 3N」

・このパソコンと携帯電話を接続するためのケーブルが必要になります。別売の携帯電話接続ケーブル (PC-VS-K10 または PC-VS-K11) を購入してください。なお、携帯電話の機種によって接続できるケーブルが異なります。ご購入の際は、販売店にてよく確かめください。

・「携快電話 3N」が使える携帯電話の機種、注意事項などの情報は、次の専用ホームページと Readme ファイルをご覧ください。

専用ホームページのアドレス

<http://www.sourcenext.co.jp/k1/target/>

携快電話 3N の Readme ファイル

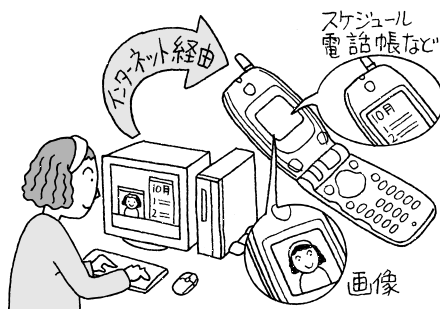
「スタート」-「プログラム」-「携快電話 3N」-「Readme」(「携快電話 3N」をこのパソコンにインストールしてからご覧ください)



携快電話 3N の詳しい使いかた 携快電話 3N のヘルプまたは、添付ソフトの使い方-「携快電話 3N」または「携快電話 3N ご愛用のしおり」

パソコンで作成したデータを iモード機能のある携帯電話で閲覧する

パソコンで作成した画像や予定表、連絡先などのデータをホームページに登録することで、外出先などから、iモード機能を備えている携帯電話で閲覧することができます。



携帯電話でデータを閲覧できるようにするための準備

携帯電話でデータを閲覧できるようにするには、次の準備が必要です。

- ・iモード機能のある携帯電話を準備する
- ・パソコンをインターネットに接続できる環境にするプロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。

・自分のホームページスペースを開設する
FTP プロトコル(インターネット上でファイルを転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設する個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに、自分の予定表や画像などのデータを登録し、携帯電話からそのホームページを閲覧します。

準備ができたなら、見たい情報の操作手順を確認してください。

写真などの画像を携帯電話で見る

携帯電話で見たい画像を用意する


デジタルカメラで撮影した写真などの画像ファイルをパソコンに取り込んでおきます。

携帯電話で見られるように画像を編集する

画像を編集するには、「スナップショット」を使います。スナップショットでは、各機種に対応したサイズに画像データを再編集できます。「スナップショット」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。このパソコンに添付のアプリケーション CD-ROM からインストールしてお使いください。



参照

・「スナップショット」のインストール  「サポートセンター」・「アプリケーションの追加と削除」・「スナップショット」

・「スナップショット」の詳しい使いかた 「スナップショット」のヘルプ

画像データを個人ホームページに登録する

BIGLOBE に入会している場合は、BIGLOBE の i モード向けサービス「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」(有料)が利用できます。「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」では、アルバム形式でホームページに画像を登録できます。

その他のプロバイダに入会した場合は、開設した個人ホームページに登録します。ホームページへの登録方法は、各プロバイダに確認してください。



参照

「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」について
<http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/album/>(トップページ URL)
<http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/album/manual.html>(操作方法の URL)

登録したデータを携帯電話の i モード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力します。

「スナップショット」は、EZweb、J-SKY 機能を持つ携帯電話で見られるように、画像を編集することもできます。

パソコンで作成した予定表や連絡先などを i モード機能のある携帯電話で見る

このパソコンで作成した予定表や連絡先などを i モード機能のある携帯電話で見るには、「NEC PC オーナーズスケジューラ」を使います。

NEC PC オーナーズスケジューラを使う

「NEC PC オーナーズスケジューラ」は、予定表、アドレス帳などの情報を、まとめて管理するためのホームページです。自分の情報にアクセスするには、メンバー名とパスワードが必要なので、他人に勝手に見られることはありません。

自分の情報を仲間に公開すれば、グループ内で情報共有することもできます。このグループ機能を使えば、仲間との予定の調整と自分のスケジュールの管理が同時にできます。

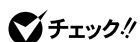
NEC PC オーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

NEC PCオーナーズスケジューラに予定表などの情報を登録する

NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスし、情報を登録します。



NEC PCオーナーズスケジューラの URL
http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/



NEC PCオーナーズスケジューラを利用するには、BIGLOBEのCYBER PLAZAメンバーシップへの登録(無料)が必要です。

NEC PCオーナーズスケジューラ(正式名称: NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBE スケジューラ)は、BIGLOBEのサービス「BIGLOBEスケジューラ」を利用して実現しています。NEC PCオーナーズスケジューラを利用する際の規約や説明文などには「BIGLOBE スケジューラ」と表示されていることがあります。

登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力して、NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスします。メンバー名とパスワードを入力すると、登録したデータが見られます。



NEC PCオーナーズスケジューラの操作方法
NEC PCオーナーズスケジューラのヘルプ

CD-RやCD-RW にデータを書き 込む

CD-R/RW with DVD-ROMモデルまたはCD-R/RWモデルでは、CD-RやCD-RWというメディア(記録媒体)に大量にデータを書き込むことができます。ここではCD-RやCD-RWにデータを書き込むときのポイントなどについて説明します。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブはDVD-ROMの読み出しに対応したCD-R/RWドライブです。CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでは、CD-RやCD-RWという持ち運び可能なメディアに大量のデータ(650Mバイトなど)を記録できます。また、CD-RやCD-RWは多くのCD-ROMドライブで読み込むことができるため、CD-ROMドライブのある他のパソコンとのデータの受け渡しに適しています。

✓チェック!!

CD-ROMモデル、DVD-ROMモデルには外付けのCD-R/RWドライブを増設することでCD-R、CD-RWにデータを記録できます。

CD-RとCD-RWの特長

CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを書き込む(記録する)ことができるメディアには、CD-R(CD-Recordable)とCD-RW(CD-ReWritable)があります。それぞれ、次のような特長があります。

- ・CD-R(CD-Recordable)
 - 一度だけデータを書き込むことができる(書き換え不可)
 - CD-ROMドライブで読み込みが可能
 - メディアが安価
- ・CD-RW(CD-ReWritable)
 - データを繰り返し書き換えることができる


CD-RやCD-RWにデータを書き込むソフトについて

CD-RWやCD-Rにデータを書き込むためには、専用のアプリケーション(ライティングソフト)が必要です。このパソコンには、次の2種類のライティングソフトが用意されています。それぞれに特徴がありますので、目的に応じて適した方をお使いください。

DirectCD

DirectCDは、ご購入時ではインストールされていません。DirectCDを使うには添付のアプリケーションCD-ROMからインストールを行います。

☞参照

DirectCDのインストール方法  「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「DirectCD」

DirectCDには、次のような特徴があります。

- ・書き込む前に、メディアをDirectCD専用フォーマットする必要がある
- ・フロッピーディスクに保存するように、マイコンピュータやエクスプローラ、アプリケーションなどからデータを直接書き込める
- ・作成したCDを他のパソコンで読み込むには、CD-Rの場合は、DirectCDでの処理が必要。CD-RWの場合は、UDF Readerのインストールが必要
- ・いろいろなデータを頻繁に書き込むのに適しているため、データのバックアップに向いている

☞参照

DirectCDの操作について 「スタート」-「プログラム」-「Adaptec DirectCD」の「DirectCDヘルプ」または「クイックリファレンス」

Easy CD Creator

Easy CD Creatorには、次のような特徴があります。

- ・データを書き込むときに、Easy CD Creatorを起動させる必要がある
- ・いろいろな形式のCDをガイドに沿って簡単に作成できる
- ・作成したCDを他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- ・大きなデータをまとめて書き込むのに適している
- ・デジタルカメラで撮った写真データなどの受け渡しに適している



参照

Easy CD Creatorの操作について「スタート」プログラム、「Adaptec Easy CD Creator 4」-「クイックリファレンス」

データを書き込む際の注意

- ・書き込みを行う前には必ず、他のアプリケーションを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- ・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- ・データを書き込むときは、書き込み中に休止状態またはスタンバイ状態にならないように、省電力の設定を「なし」に設定してください。
- ・作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。



参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART 10の「省電力の設定を変える」(p.94)

他のCD-ROMドライブでメディアを読み込むときの注意

CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを記録したメディアを、他のCD-ROMドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したアプリケーションによっては注意が必要な場合があります。詳しくは、アプリケーションに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。またCD-R/RWメディアによっては、お使いのCD-ROMドライブでは、読み込めない場合があります。マルチリード対応のCD-ROMドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応のCD-ROMドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。



チェック!!

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

P A R T

12

本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定する BIOS セットアップメニューとこのパソコンのリソースについて説明しています。

通常は、この設定を変更する必要はありません。

BIOS セットアップメニュー

このパソコンが使用しているリソース

BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

参照

BIOSセットアップメニューの操作方法や各設定項目について「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「BIOS 設定」

チェック!!

BIOSセットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力管理の設定
- ・起動の設定

BIOS セットアップメニューを使う

BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > キーを押すと、BIOSセットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。

「セットアップを起動しています...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOSセットアップユーティリティ					
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	起動 終了	メニューバー
システム時刻:	[XX:XX:XX]			項目ヘルプ	メニューバー
システム日付:	[XXXX/XX/XX]			<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。	
言語:	[日本語 (JP)]				パラメータ
フロッピーディスクA:	[1.44/1.25Mb 3.5"]				
プライマリマスタ	[XXXXMB]				
プライマリスレーブ	[なし]				
セカンダリマスタ	[CD-ROM]				キーステータスバー
セカンダリスレーブ	[なし]				
キーボード機能					
起動時の自己診断画面	[使用しない]				
システムメモリ:	640KB				
拡張メモリ:	x x KB				
BIOS リビジョン	XXXX				
F1 ヘルプ	項目の選択	-/+	値の変更	F9 デフォルトの設定	
Esc 終了	メニューの選択	Enter	サブメニューの選択	F10 保存して終了	

上の画面は、機種によって異なる場合があります。

BIOS セットアップメニューの終了

変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す。
「セットアップ確認」画面が表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す。
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でもBIOSセットアップメニューを終了することができます。

起動前の設定のまま終了する場合

【 】【 】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

【 】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【 】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。

BIOSセットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOSセットアップメニューが終了します。

デフォルト値の設定

以下の手順で設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻すことができます。

【F9】を押す。
「セットアップ確認」画面が表示されます。


【 】【 】で「はい」を選んで【Enter】を押す。
すべての設定値をデフォルト値(購入時の値)に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

BIOS セットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 】【 】でメニューバーのカーソルを選択し、【 】【 】で設定項目を選択します。
- ・設定内容(例:システム時計の時、分、秒)のカーソル移動は【Tab】で選択します。設定内容の値は【+】、【-】で変更します。
- ・▶印がついた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

BIOS セットアップメニュー

BIOS セットアップメニューの設定について詳しくは、「サポートセンター」-「ハードウェア情報」-「BIOS 設定」をご覧ください。

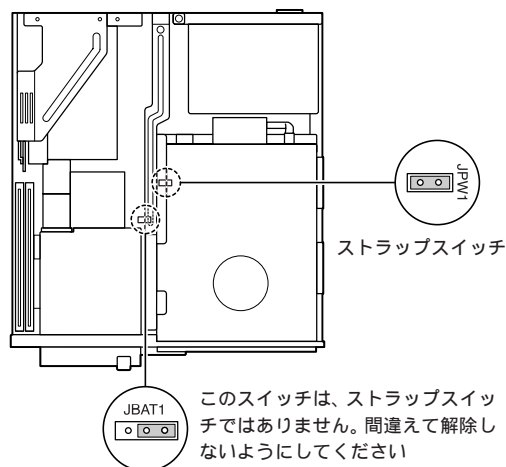
パスワードの解除

このパソコンでは、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、本機を起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

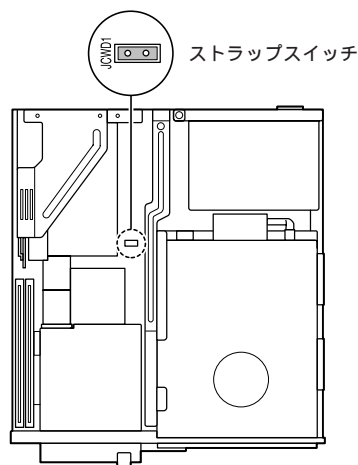
ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。ストラップスイッチの位置を次の図を見てよく確認してください。このスイッチを取り外すことでパスワードの解除ができます。

■ A タイプの場合



■ B タイプの場合



パスワードの解除のしかた

⚠ 注意



本体内部に手を入れるときは、指をさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。

 参照

ルーフカバーの開け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

ストラップスイッチを上引き抜く。
ストラップスイッチを引き抜くには、ピンセットなどを使ってください。

 **チェック!**

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

 参照

ルーフカバーの閉め方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

本体背面から外したケーブルを元通りに接続して、本機の電源を入れる。
Windows が起動します。

Windows を終了し、本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

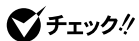
手順 で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差し込む。
ピンセットなどを使ってストラップスイッチを元通りに取り付けます。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルを元通りに接続する。

このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)。



リソースについて詳しく知りたい方は、市販の Windows の解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

割り込みレベル(IRQ)

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空)
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	FAXモデムボード/アクセラレータ/IEEE1394
10	USBインターフェイス/CardBus/ACPI
11	サウンド/PCI
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	IDEコントローラ (セカンダリ)

DMA チャンネル

DMA	機能
#0	(空)
#1	(空)
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	(空)
#4	DMAコントローラ
#5	(空)
#6	(空)
#7	(空)

付 録

パソコンのお手入れ

本体の各部の名称

機能仕様

FAX モデムボード機能仕様

パソコンのお手入れ

パソコンを長く使っていると、本体やディスプレイの汚れが気になるものです。また、マウス内部のローラーやボールにホコリなどがついて汚れてしまうと、マウスの操作がうまくできなくなります。日頃から、お手入れをするように心がけましょう。

⚠注意



お手入れの前には、パソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



準備するもの

- 軽い汚れのとき
乾いたきれいな布



- 汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

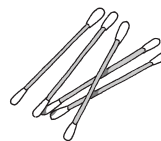


- フロッピーディスクドライブをクリーニングするとき
クリーニングディスク



フロッピーディスクドライブをクリーニングするときは、クリーニングディスク(別売)を使います。クリーニングディスクについては、ご購入元または NEC に問い合わせてください。

- マウスをクリーニングするとき
綿棒



✔チェック!!

OA機器用クリーニングキットも汚れをふきとるのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについては、ご購入元または NEC に問い合わせてください。

✔チェック!!

シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や揮発性の有機溶剤を含む化学ぞうきんは、使わないでください。キーボードを傷めたり、故障の原因になります。

📖参照

NECのお問い合わせ先 『121ware ガイドブック』

電源を切って、電源ケーブルを外す

お手入れの前には、かならず、パソコンの周辺機器やパソコンの電源を切ってください。電源ケーブルはコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

清掃する

パソコン

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

パソコンの内部

長期間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

ディスプレイ

やわらかい布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

チェック!!

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

参照

NECのお問い合わせ先 『121ware ガイドブック』

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

キーボード

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

マウス

やわらかい布でふいてください。

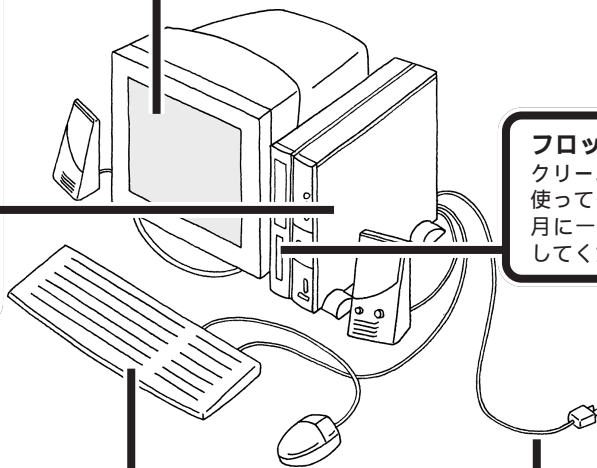
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。

参照

「マウスのクリーニング」(次ページ)



マウスのクリーニング

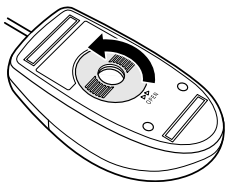
マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに、ローラーやボールに油分が付くと、故障の原因になったりします。ローラーにはとくに汚れがたまりやすいので、定期的なクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、手順 ~ は省略しても構いません。

✓チェック!!

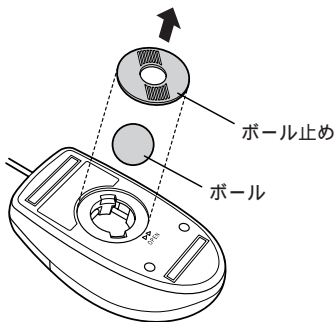
取り外したボールやボール止めは、お子さまが誤って飲みこんだりしないよう、ご注意ください。

パソコンの電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す。

マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる。



ボール止めを取り外し、ボールを取り出す。



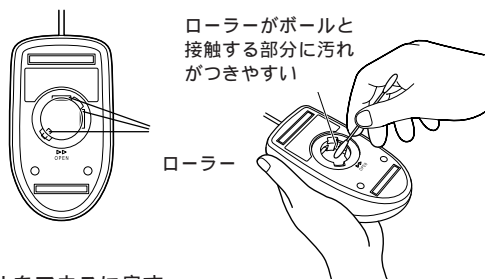
ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす。

水で中性洗剤を洗い落とす。

布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる。

マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす。

汚れが落ちないときは、やわらかい歯ブラシなどで汚れを取る(このとき、歯ブラシに、水やはみがき粉などをつけないでください)。



ボールをマウスに戻す。

ボール止めを取り付け、手順 と逆の方向に回して固定する。

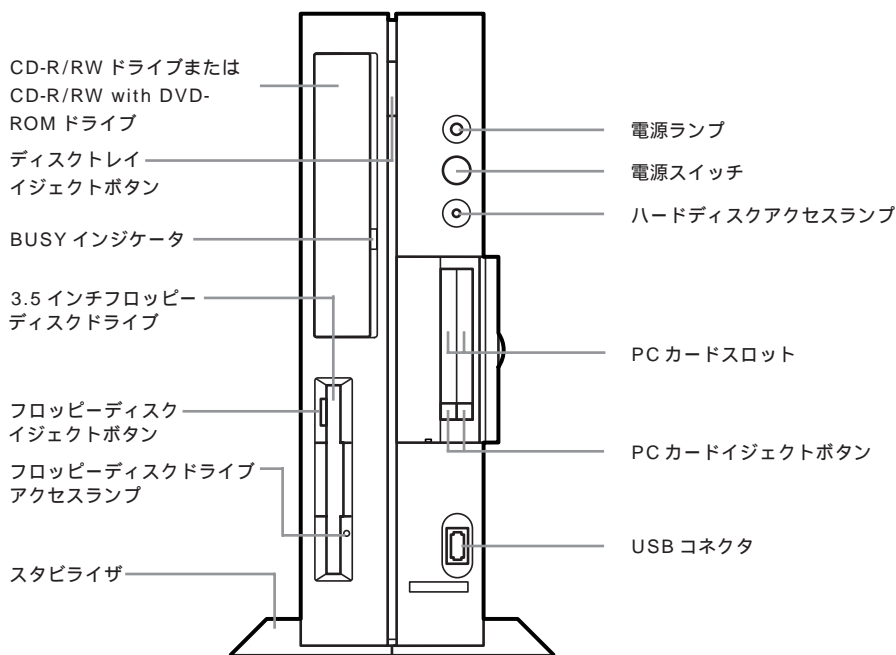
マウスのケーブルをキーボードに取り付ける。

✓チェック!!

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

本体の各部の名称

本体前面



電源ランプ

電源の入/切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。休止状態または電源が切れている状態のときは、消灯します。

電源スイッチ ()

電源を入れるスイッチ。休止状態からの復帰にも利用します。電源を切るときは、Windows Me の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「終了」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る/入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。

チェック!!

・Windows が明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約 4 秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいますので正しい方法で操作してください。

・停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

ハードディスクアクセスランプ ()

ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

PC カードスロット

PC カードを取り付けるスロット。2 スロットあります。PC カードには、メモリカードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器とつなげるための SCSI カードなどいろいろな種類があります。

PC カードイジェクトボタン

PC カードを PC カードスロットから取り出すときに使うボタン。

USBコネクタ()

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブ

・CD-R/RW モデル

CD-ROM や音楽CDを入れるところ。また、CD-R、CD-RW メディアにデータを記録するところ。

・CD-R/RW with DVD-ROM モデル

DVD-ROM やCD-ROM、音楽CDを入れるところ。また CD-R、CD-RW メディアにデータを記録するところ。

ディスクトレイジェクトボタン

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

BUSYインジケータ

CD-R/RW ドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブからデータを読み出しているときに点灯します。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM などを取り出したりしないでください。故障の原因となります。

3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5 インチサイズのフロッピーディスクを入れるところ。

フロッピーディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

フロッピーディスクドライブアクセスランプ

フロッピーディスクドライブの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

ランプの点灯中は電源スイッチを押したり、フロッピーディスクイジェクトボタンを押したりしないでください。フロッピーディスクドライブやフロッピーディスクがこわれることがあります。

スタビライザ

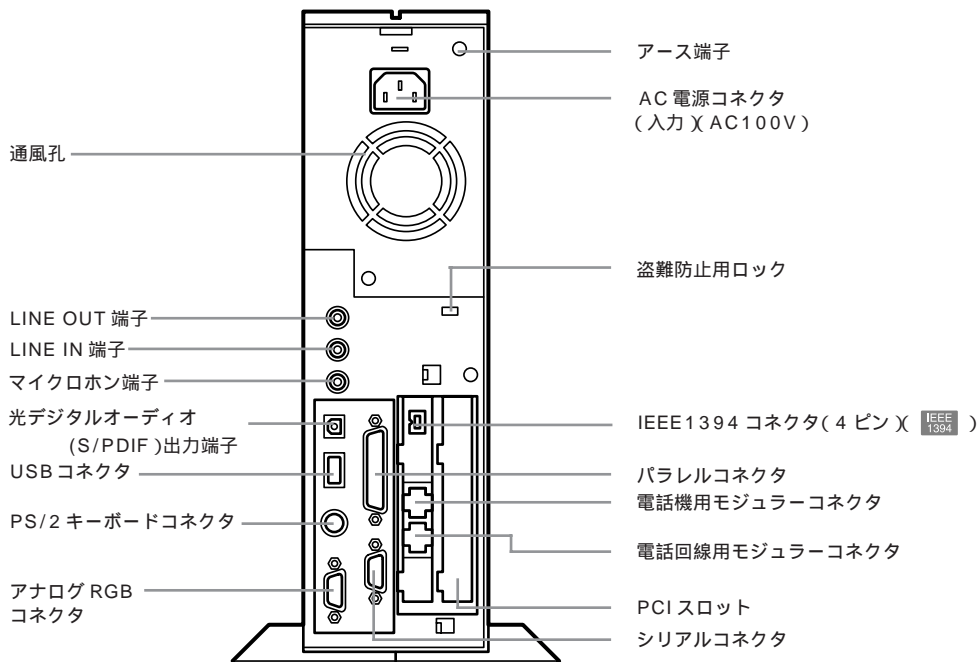
本体を安定して設置するための脚。

チェック!!

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。
また、モデルにより本体の形状は多少異なります。



アース端子 (⏏)

アース線を接続するための端子。

AC電源コネクタ(入力 X AC100V)

ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

盗難防止用ロック (K)

市販の盗難防止用ケーブルを接続できます。盗難防止用ロックを使用することで、ルーファカバーがロックされるため、本体内部のハードディスクやRAM サブボードなどの盗難を予防できます。

✓チェック!!

盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についての連絡先は、以下の通りです。

(2000年12月現在)

日本ボラデジタル株式会社 第3営業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号
はごろもビル5F

Tel : 03-3537-1070

Fax : 03-3537-1071

IEEE1394コネクタ(4ピン X IEEE1394)

IEEE1394対応機器(4ピン)を接続するためのコネクタ。

パラレルコネクタ (P)


プリンタなどを接続するためのコネクタ。

✓チェック!!


PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。PK-CA101は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)と同時に取り付けることはできません。

電話機用モジュラーコネクタ (T)

電話機を接続するためのコネクタ。

電話回線用モジュラーコネクタ()
電話回線を接続するためのコネクタ。


PCIスロット
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種
ボードを、取り付けるためのスロット。高速なデータ
転送ができる PCIバスに対応。


シリアルコネクタ()
周辺機器を接続するためのコネクタ。
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャ
ナなどの周辺機器を接続します。


チェック!!


- ・PC-9800 シリーズ用の機器を接続する場合は、別
売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要
です。PK-CA102 は別売のプリンタインタフェ
ース変換アダプタ(PK-CA101)と同時に取り付ける
ことはできません。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動
作しないことがあります。


通風孔
本体内部の熱を逃がすための孔です。壁などでふさが
ないように注意してください。


LINE OU端子(ステレオ)()
添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器など
に、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャッ
ク端子。

LINE IN端子(ステレオ)()
市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)
を本体に入力するためのミニジャック端子。

マイクロホン端子(モノラル)()
マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。


光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子()
MDデッキやAVアンプなどデジタル入力機能を持っ
たオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形
状によっては使用できないものがありますので、ケー
ブルは、よくお確かめの上、ご購入ください。

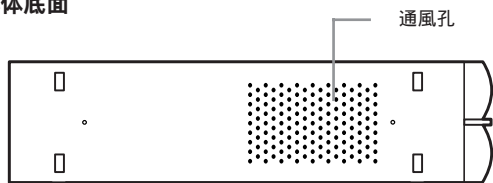
USBコネクタ()
USB 対応機器を接続するためのコネクタ。
USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用でき
るかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確
認ください。

PS/2キーボードコネクタ()
PS/2コネクタに対応したキーボードを接続するた
めのコネクタ。

チェック!!

- ・PS/2 キーボードを抜き差しするときは、本体の電
源を切った状態で行ってください。
- ・PS/2 キーボード使用時は、BIOS セットアップメ
ニューの「USBレガシー機能」を「使用しない」に設
定してください。
- ・PS/2 キーボード使用時は、電話などのリングで休
止状態またはスタンバイ状態から復帰させることは
できません。

アナログRGBコネクタ()
アナログRGB 対応ディスプレイを接続するためのコ
ネクタ。

本体底面**通風孔**

本体内部の熱を逃がすための孔。

底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがない状態になります。

✓チェック!

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

機能仕様

VL1000N/6、VL750R/6

型名	VL1000N/67D		VL750R/67D	VL750R/65D	
型番	PC-VL1000N67D		PC-VL750R67D	PC-VL750R65D	
CPU	エンハンスト3DNow!™ テクノロジ 1GHz AMD Athlon™ プロセッサ		750MHz AMD Duron™ プロセッサ		
チップセット	VIA社製 Apollo KT133 Chipset				
システムバスクロック	200MHz(メモリバス:133MHz)				
キャッシュ	1次	128Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ	2次	256Kバイト(CPU内蔵)	64Kバイト(CPU内蔵)		
メインRAM	標準容量	64Mバイト(SDRAM-DIMM、PC133対応)			
	スロット数	2スロット(DIMMスロット、内1スロットにメモリ実装済み) 空きスロット1]			
	最大容量	512Mバイト 1(増設RAMサブボードにより増設可能)			
表示機能	ビデオRAM	16Mバイト			
	グラフィックアクセラレータ	nVIDIA™ 社製 Vanta™(AGP)			
	解像度・表示色	640×480ドット	最大1,677万色		
		800×600ドット	最大1,677万色		
		1,024×768ドット	最大1,677万色		
1,280×1,024ドット		最大1,677万色	最大1,677万色 2		
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能:ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8 ~ 48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)			
	サウンド機能	エンハンストステレオ			
	ステレオスピーカ	外付けスピーカ			
入力装置	キーボード	PS/2キーボード PS/2コネクタに接続、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き、マウス専用コネクタ(1ポート)付き			
	マウス	PS/2マウス 添付のキーボードにあるマウス専用コネクタに接続、スクロール機能付き			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)×1 3			
	ハードディスクドライブ 4	内蔵 約60G/バイト 5 Ultra ATA-66対応、 7,200rpm	内蔵 約40G/バイト 6 Ultra ATA-66対応		
	CD/DVDドライブ	CD-R/RW with DVD-ROM内蔵 7 8 読み込み : 最大4倍速(DVD-ROM) 書き込み : 最大4倍速(CD-R) : 最大2.4倍速(CD-ROM) : 最大2.4倍速(CD-RW)	CD-R/RW 内蔵 7 読み込み : 最大3.2倍速(CD-ROM) 書き込み : 最大8倍速(CD-R) : 最大4倍速(CD-RW)		
インターフェイス	USB 9	2(コネクタ4ピン)			
	パラレル	1(D-sub25ピン)			
	シリアル	1(D-sub9ピン)			
	ディスプレイ アナログ	1(ミニD-sub15ピン)			
	PS/2	1(ミニDIN6ピン)			
	FAXモデム	2(LINE、TELEPHONE)、モジュラコネクタ			
	IEEE1394(DV)	1(4ピン) 10			
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力(角形) 11、ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)			
通信機能 FAXモデム	データ通信 : 最大56Kbps 12 (K56flex™、V.90対応) / FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応				
5型ベイ	1スロット(CD/DVDドライブで1スロット占有済) [空きスロット0]				
内蔵3.5型ベイ	1スロット(HDDで1スロット占有済) [空きスロット0]				
拡張スロット	PCカードスロット	Type ×2(Type ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 13			
	PCIスロット	1スロット(ハーフ×1) [空きスロット1]			
電源	AC100V±10%、50/60Hz				
消費電力	本体	約54W(最大96W)	約48W(最大91W)	約45W(最大88W)	
	ディスプレイ	約100W			
エネルギー消費効率	R区分 0.012	R区分 0.015		R区分 0.014	
温湿度条件	10 ~ 35 °C、20 ~ 80% (ただし結露しないこと)				

VL1000N/6、VL750R/6

型名	VL1000N/67D	VL750R/67D	VL750R/65D	
外形寸法	本体	86(W)×320(D)×305(H)mm(ゴム足、突起部除く) 14		
	ディスプレイ	403(W)×420(D)×420(H)mm (専用回転台含む)	360(W)×380(D)×381(H)mm (専用回転台含む)	
	キーボード	382(W)×179(D)×44(H)mm		
質量	本体	約7.6kg	約7.8kg	
	ディスプレイ	約18.8kg	約12.1kg	
	キーボード	約1.2kg		
	マウス	約0.2kg		
インストールOS	Windows® Millennium Edition 15 16			
サポートOS	Windows® Millennium Edition 16、Windows® 2000 Professional 16			
主なインストールソフト	Office2000 Personal			
主な添付品	バックアップCD-ROM、ガイドブック、電源ケーブル、アース線、回線接続ケーブル、保証書			
ディスプレイ	画面サイズ	17型(フルフラット、ダイヤモンドロン® モニタ)	15型(CRT)	
	表示寸法	標準表示範囲: 300(W)×225(H)mm 17 19 最大表示可能範囲: 325(W)×243(H)mm 18	標準表示範囲: 260(W)×195(H)mm 17 最大表示可能範囲: 280(W)×210(H)mm 18	
	ドットピッチ 20	0.25mm	0.28mm	
	水平走査周波数	31~69KHz		
	垂直走査周波数	59~86Hz		
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット、1,280×1,024ドット (自動切替)	640×480ドット、800×600ドット、 1,024×768ドット(自動切替)	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1: 増設RAMサブボード(256Mバイト)を2枚実装する必要があります。標準実装のメモリを取り外す必要があります。
- 2: セットの15型CRTディスプレイでは表示不可です。
- 3: 3モード(720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイト)に対応しています。ただし1.2Mバイトモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能(フォーマットは不可)となります。
- 4: 1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。
- 5: Windowsのシステムからは、容量が約55.8Gバイトと認識されます。
- 6: Windowsのシステムからは、容量が約37.2Gバイトと認識されます。
- 7: 縦置き時、8cmCDは使用不可です。
- 8: 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。
- 9: 接続する周辺機器及び利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 10: 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 11: 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 12: 56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は33.6Kbpsになります。
- 13: ZVポート対応カードは使用できません。
- 14: スタビライザ(縦置き台)取り付け時は155(W)×320(D)×316(H)mmです。
- 15: 別売のWindows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 16: 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。
- 17: 表示するタイミングによっては表示サイズが変わる場合があります。
- 18: 接続する装置及び表示する解像度によっては、表示面積を最大まで広げられない場合があります。
- 19: 1,280×1,024表示時は288(W)×230(H)mmです。
- 20: 17型CRTディスプレイの場合はAGピッチです。

セットのスピーカの機能仕様

最大定格出力	1W + 1W
外形寸法	約78(W)×120(D)×180(H)mm(片側)
質量	スピーカ(右)約370g、スピーカ(左)約340g ACアダプタ約180g(ケーブル含む)

FAX モデムボード機能仕様

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 K56flex V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット AT Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFTーン、ダイヤルパルス制御)

FAX 機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM : 14,400/12,000/9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400bps FSK : 300bps
送信レベル	-10 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ: 56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,333/32,000/30,667/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM : 56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,600/33,333/32,000/31,200/30,667/29,333/28,800/28,000/26,400/24,000 21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM : 9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400/1,200bps FSK : 1,200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-10~-15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信 / 自動着信型) MA(手動発信 / 自動着信型) MM(手動発信 / 手動着信型) AM(自動発信 / 手動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

ATコマンド *については、このパソコンの電子マニュアル「サポートセンタ」の「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

* : 米国 Hayes 社が開発したコマンド体系。DTE(パソコンなどの端末機器) から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発信を行うことができる。

索 引

英数字

121ware.com	5
【121ware】ボタン	89
3.5インチフロッピーディスクドライブ	112
3Dグラフィックアクセラレータボード	18, 54
3モードFDドライバ	90
ACPIモード	91
AC電源コネクタ(入力) AC100V)	113
APMモード	91
AV機器	9
BIOSセットアップメニュー	102
BUSYインジケータ	112
CardBus	46
CD/DVDプレーヤボタン	88
CD-R	99
CD-RW	99
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	99, 112
CD-R/RWドライブ	99, 112
DIMM	60
DirectCD	99
DMAチャネル	105
DSU	13
DVD-ROMドライブ	17
Easy CD Creator	99
FAXモデムボード機能仕様	118
Fnキー	88
IEEE1394	41
IEEE1394コネクタ	43, 113
IRQ	105
ISDN回線	13
ISDNターミナルアダプタ	13
iモード	96
Jet-Audio Player	9
LAN(ネットワーク)ボード	18, 54
LINE IN端子	12, 114
LINE OUT端子	12, 114
MOディスクドライブ	17
NEC PCオーナーズスケジューラ	97
Nキーロールオーバー	89
PC-9800シリーズのキーボード	89

PC Card Standard	46
PCカード	45
PCカードイジェクトボタン	50, 111
PCカードスロット	46, 111
PCカードの設定	49
PCIスロット	54, 114
PCIボード	18, 54
PS/2キーボードコネクタ	114
PS/2マウスコネクタ	87
RAMサブボード	61
SCSI	67
SCSI ID	70
SCSIインターフェイス	67
SCSIインターフェイスボード	18, 54, 69
SCSI機器接続ケーブル	70, 71
USB	33
USBコネクタ	2, 35, 37, 106, 114
USBハブ	2, 40
Windowsキー	87

ア行

アース端子	113
アナログRGBコネクタ	114
アプリケーションキー	87
インクジェットプリンタ	7
【インターネット】ボタン	88
インターフェイス	34
音量	11, 88

カ行

ガイドラベル	89
キーの名称	86
キーの役割	86
キーのロック	87
キーボード	86
機能仕様	116
休止状態	91
携快電話3N	96
コンパクトフラッシュ	15

サ行

【サポート】ボタン	89
周辺機器の取り外し	25
省電力機能	91
シリアルコネクタ	3, 114
スクロールボタン	84
スタビライザ	28, 112
スタンバイ状態	91
ストラップスイッチ	103
スナップショット	97
スマートメディア	15
【スリープ】ボタン	89
増設RAMサブボード	60
外付け用ハードディスク	17, 77

タ行

ターミナルアダプタ	13
ターミネータ	69
通風孔	114, 115
ディスクトレイイジェクトボタン	112
デジチェーン	69
デジタルカメラ	15
デジタル署名	24
デジタルビデオカメラ	19
電源スイッチ	111
電源ランプ	91, 111
電話回線用モジュラーコネクタ	114
電話機用モジュラーコネクタ	113
盗難防止用ロック	113
ドットインパクトプリンタ	7
ドライバ	8, 22, 82

ハ行

ハードディスク	75, 90
ハードディスクアクセスランプ	111
ハーフサイズのPCIボード	54
ハウリング	11
パスワード	103
パソコンのお手入れ	108
バックアップ	99
パラレルコネクタ	3, 113
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子	9, 114

フォーマット	79
プラグ&プレイ	23
フラッシュメモ리카ード	15
プリンタ	7
フロッピーディスク	90
フロッピーディスクイジェクトボタン	112
フロッピーディスクの種類	90
フロッピーディスクドライブアクセスランプ	112
ページプリンタ	7
ボリュームボタン	88
本体の各部の名称	111

マ行

マイクロホン端子	11, 114
マウス	84
マウスのクリーニング	110
マルチファンクションカード	52
【メール】ボタン	88
メモリ	59

ヤ・ラ・ワ行

【ユーザ】ボタン	89
リソース	82, 105
リング機能	92
ルーフカバー	27
レーザープリンタ	7
割り込みレベル (IRQ)	105
ワンタッチスタートボタン	88

やりたいこと別マニュアルガイド

あなたのやりたいことがどのマニュアルに書いてあるか、このガイドを参考に探してください。

パソコンの接続とセットアップをしたい	はじめにお読みください
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW を使いたい	はじめにお読みください
フロッピーディスクを使いたい	はじめにお読みください
「パソコンのいろは」 / 「サポートセンタ」について知りたい	はじめにお読みください
マウスの使い方を知りたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
インターネットで、できることが知りたい	使っておぼえるパソコンの基本
インターネットを利用したい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
電子メールを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
BIGLOBE に入会したい	使っておぼえるパソコンの基本
ワープロを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本
バックアップを取りたい	使っておぼえるパソコンの基本、困ったときのQ&A、サポートセンタ
プリンタを使いたい	もっと知りたいパソコン
USB 対応機器を使いたい	もっと知りたいパソコン
IEEE1394 対応機器を使いたい	もっと知りたいパソコン
PC カードを使いたい	もっと知りたいパソコン
周辺機器を取り付けたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの拡張性について知りたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの機能について詳しく知りたい	もっと知りたいパソコン、サポートセンタ
パソコンのお手入れをしたい	もっと知りたいパソコン
パソコンのトラブルを予防したい	困ったときのQ&A
再セットアップしたい	困ったときのQ&A
パソコンが思うように動かない	困ったときのQ&A、サポートセンタ
パソコン用語の意味を知りたい	サポートセンタ
どんなアプリケーションが入っているか知りたい	サポートセンタ
アプリケーションの使い方が知りたい	サポートセンタ
アプリケーションを追加 / 削除したい	サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい	サポートセンタ
受けられるサポートについて知りたい	サポートセンタ
デジタルカメラやインターネットの画像を加工したい	サポートセンタ
FAX を送受信したい	サポートセンタ

VALUESTAR

もっと知りたいパソコン



PC98-NX SERIES
VALUESTAR

初版 2001年1月
NEC
P
853-810130-016-A